



ユーザーガイド

# AWS サインイン



# AWS サインイン: ユーザーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

# Table of Contents

AWS サインインとは .....	1
用語 .....	1
管理者 .....	2
アカウント .....	2
認証情報 .....	2
企業認証情報 .....	2
プロフィール .....	3
ルートユーザーの認証情報 .....	3
ユーザー .....	3
検証コード .....	3
リージョンの可用性 .....	3
サインインイベント .....	4
ユーザータイプを決定する .....	4
ルートユーザー .....	5
IAM ユーザー .....	5
IAM アイデンティセンター .....	5
フェデレーテッドアイデンティティ .....	6
AWS ビルダー ID ユーザー .....	7
サインイン URL を決定する .....	7
AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL .....	7
AWS アクセスポータル .....	8
IAM ユーザーのサインイン URL .....	8
フェデレーテッドアイデンティティ URL .....	9
AWS ビルダー ID URL .....	9
許可リストに追加するドメイン .....	9
AWS 許可リストへのドメインのサインイン .....	10
AWS アクセスポータル 許可リストのドメイン .....	10
AWS ビルダー ID 許可リストのドメイン .....	10
セキュリティのベストプラクティス .....	11
にサインインする AWS マネジメントコンソール .....	13
ルートユーザーとしてサインインする .....	14
ルートユーザーとしてサインインする .....	14
追加情報 .....	17
IAM ユーザーとしてサインインする .....	17

IAM ユーザーとしてサインインするには .....	18
AWS アクセスポータルにサインインする .....	19
AWS アクセスポータルにサインインするには .....	19
追加情報 .....	20
を使用してサインインする AWS Command Line Interface .....	22
コンソール認証情報を使用してログインする (推奨) .....	22
前提条件 .....	22
IAM Identity Center 認証情報を使用してログインする .....	23
追加情報 .....	24
フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン .....	25
でサインインする AWS ビルダー ID .....	26
でサインインするには AWS ビルダー ID .....	27
既存のアカウントがある場合 .....	27
Google アカウントを持っている .....	28
Apple アカウントを持っている .....	28
GitHub アカウントを持っている .....	28
Amazon アカウントを持っている .....	29
リージョンの可用性 .....	29
を作成する AWS ビルダー ID .....	29
信頼されたデバイス .....	31
AWS ツールとサービス .....	32
プロフィールの編集 .....	33
パスワードの変更 .....	34
すべてのアクティブなセッションを削除する .....	36
を削除する AWS ビルダー ID .....	36
多要素認証 (MFA) の管理 .....	38
重要ポイント .....	38
使用可能な MFA タイプ .....	38
AWS ビルダー ID MFA デバイスを登録する .....	41
セキュリティキーを AWS ビルダー ID MFA デバイスとして登録する .....	42
AWS ビルダー ID MFA デバイスの名前を変更する .....	43
MFA デバイスの削除 .....	43
プライバシーとデータ .....	43
AWS ビルダー ID データをリクエストする .....	44
AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報 .....	44
が既存の IAM Identity Center ID とどのように AWS ビルダー ID 関連しているか .....	45

複数の AWS ビルダー ID プロファイル .....	45
からサインアウトする AWS .....	46
からサインアウトする AWS マネジメントコンソール .....	46
AWS アクセスポータルからサインアウトする .....	47
AWS Builder ID からサインアウトする .....	48
サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング .....	50
AWS マネジメントコンソール 認証情報が機能しない .....	51
ルートユーザーのパスワードリセットが必要 .....	52
の E メールにアクセスできない AWS アカウント .....	53
MFA デバイスの紛失および故障時の対応 .....	53
AWS マネジメントコンソール サインインページにアクセスできない .....	54
AWS アカウント ID またはエイリアスを見つける方法 .....	55
アカウント検証コードが必要 .....	56
のルートユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント .....	57
の IAM ユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント .....	60
のフェデレーション ID パスワードを忘れた AWS アカウント .....	61
既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しい を作成できない .....	61
中断した を再アクティブ化する必要があります AWS アカウント .....	62
サインインの問題 サポート については、 に連絡する必要があります .....	62
請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります .....	62
小売注文について質問があります .....	62
の管理にヘルプが必要です AWS アカウント .....	62
AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない .....	62
の IAM Identity Center パスワードを忘れました AWS アカウント .....	63
サインインしようとする「It's not you, it's us」というエラーが表示される .....	66
AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング .....	67
メールアドレスが既に使われています .....	68
メールの確認を完了させることができない .....	68
Google でサインインできない .....	69
Apple でサインインできない .....	69
GitHub でサインインできない .....	69
Amazon でサインインできない .....	69
Google で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました .....	70

Apple で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました .....	70
GitHub で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました .....	70
Amazon で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました .....	70
サインインしようとする「It's not you, it's us」というエラーが表示される .....	71
パスワードを忘れてしまいました .....	71
新しいパスワードを設定できない .....	71
パスワードが機能しません。 .....	72
パスワードが機能せず、AWS ビルダー ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセスできなくなる .....	72
MFA を有効にできない .....	73
認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない .....	73
MFA デバイスを削除できない .....	73
認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます .....	73
AWS Builder ID にサインインしようとする、「It's not you, it's us」というメッセージが表示されます。 .....	73
サインアウトしても完全にサインアウトされない .....	74
まだ問題を解決しようとしています .....	74
AWS マネージドポリシー .....	75
AmazonManagedSignUpServicePolicy .....	75
ApplicationProvisioningPolicy .....	76
SignInLocalDevelopmentAccess .....	76
ポリシーの更新 .....	77
ドキュメント履歴 .....	79
.....	lxxxiii

# AWS サインインとは

このガイドは、ユーザーのタイプに応じて、Amazon Web Services (AWS) にサインインするさまざまな方法を理解するのに役立ちます。ユーザータイプとアクセスする AWS リソースに基づいてサインインする方法の詳細については、次のいずれかのチュートリアルを参照してください。

- [にサインインする AWS マネジメントコンソール](#)
- [AWS アクセスポータルにサインインする](#)
- [フェデレーティッドアイデンティティとしてのサインイン](#)
- [を使用してサインインする AWS Command Line Interface](#)
- [でサインインする AWS ビルダー ID](#)

へのサインインに問題がある場合は AWS アカウント、「」を参照してください[サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング](#)。のヘルプについては、AWS ビルダー ID 「」を参照してください[AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング](#)。を作成する AWS アカウント場合 [にサインアップします AWS](#)。へのサインアップ AWS がユーザーまたは組織にどのように役立つかの詳細については、「[お問い合わせ](#)」を参照してください。

## トピック

- [用語](#)
- [AWS サインインのリージョンの可用性](#)
- [サインインイベントのログ記録](#)
- [ユーザータイプを決定する](#)
- [サインイン URL を決定する](#)
- [許可リストに追加するドメイン](#)
- [AWS アカウント 管理者向けのセキュリティのベストプラクティス](#)

## 用語

Amazon Web Services (AWS) では、[一般的な用語](#)を使用してサインインプロセスを説明しています。これらの用語を読んで理解することをお勧めします。

## 管理者

AWS アカウント 管理者または IAM 管理者とも呼ばれます。管理者 (通常は情報技術 (IT) 担当者) は、AWS アカウントを監督するユーザーです。管理者は、組織の他のメンバーよりも AWS アカウントに対して高いレベルの権限を持っています。管理者は、 の設定を確立して実装します AWS アカウント。また、IAM または IAM アイデンティティセンターのユーザーを作成します。管理者はこれらのユーザーにアクセス認証情報と AWSにサインイン用のサインイン URL を提供します。

## アカウント

標準 AWS アカウント には、AWS リソースと、それらのリソースにアクセスできる ID の両方が含まれます。アカウントは、アカウント所有者の E メールアドレスとパスワードに関連付けられます。

## 認証情報

アクセス認証情報またはセキュリティ認証情報とも呼ばれます。認証および認可を実行する際にシステムは、誰が呼び出しをしているかを特定し、リクエストされたアクセスを許可するかどうかを決定するために認証情報を使用します。認証情報は、ユーザーがサインインして AWS リソースにアクセス AWS するために に提供する情報です。人間のユーザーの認証情報には、メールアドレス、ユーザー名、ユーザー定義のパスワード、アカウント ID またはエイリアス、検証コード、および単回使用の多要素認証 (MFA) コードが含まれます。プログラムによるアクセスには、アクセスキーを使用することもできます。可能な場合は、短期のアクセスキーの使用をお勧めします。

認証情報の詳細については、「[AWS セキュリティ認証情報](#)」を参照してください。

### Note

ユーザーが送信しなければならない認証情報の種類は、ユーザータイプによって異なります。

## 企業認証情報

ユーザーが企業ネットワークやリソースにアクセスする際に提供する認証情報。社内管理者は、社内ネットワークとリソースへのアクセスに使用するのと同じ認証情報を使用する AWS アカウント ように を設定できます。これらの認証情報は、管理者またはヘルプデスクの従業員から提供されます。

## プロフィール

Builder ID AWS にサインアップすると、プロフィールが作成されます。プロフィールには、指定した連絡先情報、多要素認証 (MFA) デバイスとアクティブなセッションを管理する機能が含まれます。また、プライバシーやデータの取り扱い方法については、プロフィールをご覧ください。プロフィールとそれがどのように AWS アカウントと関連しているかについての詳細は、「[AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)」を参照してください。

## ルートユーザーの認証情報

ルートユーザーの認証情報は、AWS アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードです。セキュリティを強化するために、ルートユーザーの認証情報に MFA を追加することを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報は、アカウント内の全ての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権を提供します。ルートユーザーの詳細については、「[ルートユーザー](#)」を参照してください。

## ユーザー

ユーザーは、製品への API コール AWS や AWS リソースへのアクセス権を持つユーザーまたはアプリケーションです。各ユーザーには、他のユーザーと共有されない一連の固有のセキュリティ認証情報があります。これらの認証情報は、AWS アカウントのセキュリティ認証情報とは異なります。詳細については、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

## 検証コード

認証コードは、[多要素認証 \(MFA\) を使用して](#)サインインプロセス中にユーザーアイデンティティを確認します。認証コードの配信方法はさまざまです。テキストメッセージまたは E メールで送信できます。詳細については、管理者に確認してください。

## AWS サインインのリージョンの可用性

AWS サインインは、一般的に使用されるいくつかのリージョンで使用できます。この可用性により、AWS サービスやビジネスアプリケーションに簡単にアクセスできます。サインインがサポートするリージョンの完全なリストについては、「[AWS サインインエンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。

# サインインイベントのログ記録

CloudTrail は、自動的に有効 AWS アカウント になり、アクティビティが発生したときにイベントを記録します。以下のリソースは、サインインイベントのログ記録とモニタリングの詳細を学習するのに役立ちます。

- CloudTrail ログは、へのサインインを試みます AWS マネジメントコンソール。すべての IAM ユーザー、ルートユーザー、フェデレーションユーザーのサインインイベントは、CloudTrail ログファイルに記録を生成します。詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[AWS マネジメントコンソール サインインイベント](#)」を参照してください。
- リージョンエンドポイントを使用してにサインインする場合 AWS マネジメントコンソール、CloudTrail はエンドポイントの適切なリージョンにConsoleLoginイベントを記録します。AWS サインインエンドポイントの詳細については、AWS 全般のリファレンスガイド[AWS の「サインインエンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。
- CloudTrail が IAM Identity Center のサインインイベントを記録する方法の詳細については、「IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[IAM Identity Center サインインイベントを理解する](#)」を参照してください。
- CloudTrail が IAM でさまざまなユーザー ID 情報をログに記録する方法の詳細については、AWS Identity and Access Management 「ユーザーガイド」の「[を使用した IAM および AWS STS API 呼び出しのログ記録 AWS CloudTrail](#)」を参照してください。

## ユーザータイプを決定する

サインイン方法は、ユーザーの種類によって異なります AWS 。AWS アカウント は、ルートユーザー、IAM ユーザー、IAM アイデンティティセンターでのユーザー、またはフェデレーテッドアイデンティティとして管理できます。AWS Builder ID プロファイルを使用して、特定の AWS サービスやツールにアクセスできます。さまざまなユーザータイプを以下に示します。

### トピック

- [ルートユーザー](#)
- [IAM ユーザー](#)
- [IAM アイデンティティセンター](#)
- [フェデレーテッドアイデンティティ](#)
- [AWS ビルダー ID ユーザー](#)

## ルートユーザー

アカウントオーナーまたはアカウントルートユーザーとも呼ばれます。ルートユーザーとして、のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権があります AWS アカウント。を初めて作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権を持つ単一のサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウントのルートユーザーです。アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードを使用して、ルートユーザーとしてサインインできます。ルートユーザーは [AWS マネジメントコンソール](#) の方法でサインインします。サインインの手順については、「[ルートユーザー AWS マネジメントコンソールとしてサインインする](#)」を参照してください。

### Important

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

ルート・ ユーザを含む IAM アイデンティティの詳細については、「[IAM アイデンティ \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

## IAM ユーザー

IAM ユーザーは、AWSで作成したエンティティです。このユーザーは、特定のカスタムアクセス権限を持つ AWS アカウント 内のアイデンティティです。IAM ユーザー認証情報は、[AWS マネジメントコンソール](#) へのサインインに使用される名前とパスワードで構成されます。サインインの手順については、「[IAM ユーザー AWS マネジメントコンソールとしてサインインする](#)」を参照してください。

IAM ユーザを含むIAM アイデンティティの詳細については、「[IAM アイデンティ \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

## IAM アイデンティセンター

IAM Identity Center ユーザーは のメンバーであり AWS Organizations 、 AWS アクセスポータルを通じて複数の AWS アカウント およびアプリケーションへのアクセスを許可できます。会社が アクティブディレクトリ または別のアイデンティティプロバイダーを IAM アイデンティティセンター

と統合している場合、IAM アイデンティティセンターのユーザーは会社の認証情報を使用してサインインできます。IAM アイデンティティセンターは、管理者がユーザーを作成できるアイデンティティプロバイダーにもなります。ID プロバイダーに関係なく、IAM Identity Center のユーザーは、組織の特定のサインイン URL である AWS アクセスポータルを使用してサインインします。IAM アイデンティティセンターのユーザーが AWS マネジメントコンソールの URL からサインインできない。

IAM Identity Center のヒューマンユーザーは、次のいずれかから AWS アクセスポータル URL を取得できます。

- 管理者またはヘルプデスクの従業員からのメッセージ
- IAM Identity Center への招待 AWS を含む からの E メール

#### Tip

IAM アイデンティティセンターのサービスによって送信されるすべての E メールは、no-reply@signin.aws または no-reply@login.awsapps.com のアドレスから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

サインインの手順については、「[AWS アクセスポータルにサインインする](#)」を参照してください。

#### Note

AWS アクセスポータルには組織の特定のサインイン URL をブックマークして、後でアクセスできるようにすることをお勧めします。

IAM Identity Center の詳細については、「[IAM アイデンティティセンターとは](#)」を参照してください。

## フェデレーテッドアイデンティティ

フェデレーテッド ID は、よく知られている外部 ID プロバイダー (IdP) (例: Login with Amazon、Facebook、Google などの [OpenID Connect \(OIDC\)](#) 互換の IdP) を使用してサインインすることができるユーザーです。ウェブ ID フェデレーションを使用すると、認証トークンを受け取

り、そのトークンをの一時的なセキュリティ認証情報と交換できます。AWS そのトークンは、の  
リソースを使用するアクセス許可を持つ IAM ロールにマッピングされます AWS アカウント。 AWS  
マネジメントコンソール または AWS アクセスポータルではサインインしません。代わりに、使用  
している外部アイデンティティによってサインイン方法が決まります。

詳細については、「[フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン](#)」を参照してください。

## AWS ビルダー ID ユーザー

AWS Builder ID ユーザーとして、アクセスする AWS サービスまたはツールに特にサインインしま  
す。AWS Builder ID ユーザーは、既に持ってい AWS アカウント るもの、または作成するものを補  
完します。AWS Builder ID はユーザーを表し、 を使用せずに AWS のサービスやツールにアクセス  
するために使用できます AWS アカウント。また、情報を確認したり更新したりできるプロフィール  
もあります。詳細については、「[でサインインする AWS ビルダー ID](#)」を参照してください。

AWS Builder ID AWS は、AWS エキスパートから学び、オンラインでクラウドスキルを構築できる  
オンライン学習センターである Skill Builder サブスクリプションとは異なります。AWS スキルビル  
ダーの詳細については、[AWS 「スキルビルダー」](#)を参照してください。

## サインイン URL を決定する

ユーザーの種類 AWS に応じて、次のいずれかURLs を使用して にアクセスします AWS 。詳細につ  
いては、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

### トピック

- [AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL](#)
- [AWS アクセスポータル](#)
- [IAM ユーザーのサインイン URL](#)
- [フェデレーテッドアイデンティティ URL](#)
- [AWS ビルダー ID URL](#)

## AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL

ルートユーザーは、AWS サインインページ AWS マネジメントコンソール から にアクセスしま  
す<https://console.aws.amazon.com/>。

このサインインページには、IAM ユーザーとしてサインインするオプションもあります。

## AWS アクセスポータル

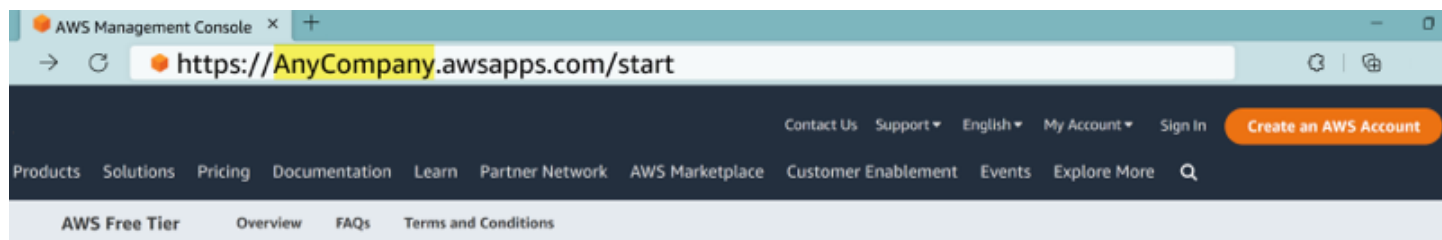
AWS アクセスポータルは、IAM Identity Center のユーザーがサインインしてアカウントにアクセスするための特定のサインイン URL です。管理者が IAM Identity Center でユーザーを作成すると、管理者は、ユーザーが IAM Identity Center への招待メールを受信するか、管理者またはヘルプデスクの従業員からワンタイムパスワードと AWS アクセスポータル URL を含むメッセージを受信するかを選択します。特定のサインイン URL の形式は、次の例のようになります。

```
https://d-xxxxxxxxxx.awsapps.com/start
```

または

```
https://your_subdomain.awsapps.com/start
```

特定のサインイン URL は、管理者がカスタマイズできるため異なります。特定のサインイン URL は D で始まり、その後に 10 個のランダムな数字と文字が続く場合があります。次の例のように、サインイン URL にサブドメインを使用して会社名を含めることもできます。



### Note

アクセス AWS ポータルの特定のサインイン URL をブックマークして、後でアクセスできるようにすることをお勧めします。

AWS アクセスポータルの詳細については、[AWS 「アクセスポータルの使用」](#) を参照してください。

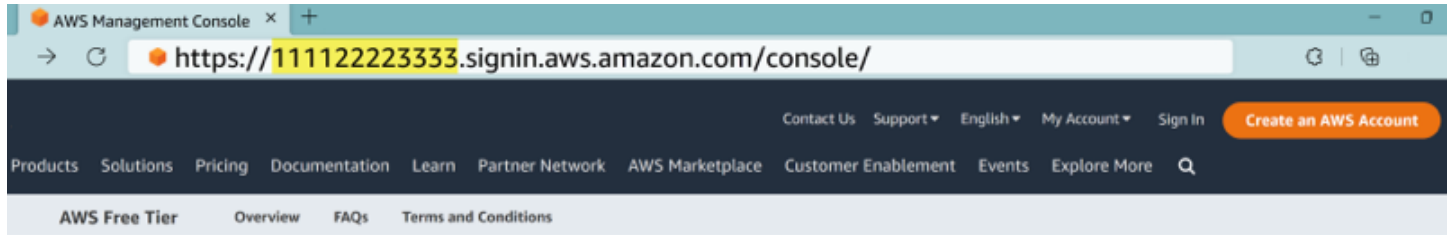
## IAM ユーザーのサインイン URL

IAM ユーザーは、特定の IAM ユーザーのサインイン URL [AWS マネジメントコンソール](#) を使用してアクセスできます。IAM ユーザーのサインイン URL は、AWS アカウント ID またはエイリアスと `signin.aws.amazon.com/console`

IAM ユーザーのサインイン URL の例 :

```
https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/
```

アカウント ID が 111122223333 の場合、サインイン URL は次のようになります。



IAM ユーザーのサインイン URL AWS アカウント を使用して にアクセスする際に問題が発生した場合は、「[の耐障害性 AWS Identity and Access Management](#)」を参照してください。

## フェデレーテッドアイデンティティ URL

フェデレーテッドアイデンティティのサインイン URL はさまざまです。外部アイデンティティまたは外部 ID プロバイダー (IdP) は、フェデレーテッドアイデンティティのサインイン URL を決定します。外部アイデンティティは、Windows アクティブディレクトリ、Login with Amazon、Facebook、または Google のいずれかです。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーテッドアイデンティティの詳細については、「[ウェブ ID フェデレーションについて](#)」を参照してください

## AWS ビルダー ID URL

AWS Builder ID プロファイルの URL は <https://profile.aws.amazon.com/> です。AWS Builder ID を使用する場合、サインイン URL はアクセスするサービスによって異なります。たとえば、Amazon CodeCatalyst にサインインするには、「<https://codecatalyst.aws/login>」を参照してください。

## 許可リストに追加するドメイン

次世代ファイアウォール (NGFW) や Secure Web Gateway (SWG) などのウェブコンテンツフィルタリングソリューションを使用して特定の AWS ドメインまたは URL エンドポイントへのアクセスをフィルタリングする場合は、ウェブコンテンツフィルタリングソリューションの許可リストに次のドメインまたは URL エンドポイントを追加する必要があります。

## AWS 許可リストへのドメインのサインイン

お客様またはお客様の組織が IP またはドメインフィルタリングを実装する場合、ドメインを許可リストに登録して、AWS マネジメントコンソールを使用する必要があります。次のドメインは、AWS マネジメントコンソールへのアクセスを試みるネットワークでアクセス可能である必要があります。

- *[Region]*.signin.aws
- *[Region]*.signin.aws.amazon.com
- signin.aws.amazon.com
- \*.cloudfront.net
- opfcaptcha-prod.s3.amazonaws.com

## AWS アクセスポータル 許可リストのドメイン

次世代ファイアウォール (NGFW) や Secure Web Gateway (SWG) などのウェブコンテンツフィルタリングソリューションを使用して特定の AWS ドメインまたは URL エンドポイントへのアクセスをフィルタリングする場合は、ウェブコンテンツフィルタリングソリューションの許可リストに次のドメインまたは URL エンドポイントを追加する必要があります。これにより、にアクセスできます AWS アクセスポータル。

- *[Directory ID or alias]*.awsapps.com
- \*.aws.dev
- \*.awsstatic.com
- \*.console.aws.a2z.com
- oidc.*[Region]*.amazonaws.com
- \*.sso.amazonaws.com
- \*.sso.*[Region]*.amazonaws.com
- \*.sso-portal.*[Region]*.amazonaws.com

## AWS ビルダー ID 許可リストのドメイン

お客様またはお客様の組織が IP またはドメインフィルタリングを実装する場合、ドメインを許可リストに登録して、AWS ビルダー ID を作成して使用する必要があります。以下のドメインは、AWS ビルダー ID へのアクセスを試みるネットワークでアクセス可能である必要があります。

- `view.awsapps.com/start`
- `*.aws.dev`
- `*.uis.awsstatic.com`
- `*.console.aws.a2z.com`
- `oidc.*.amazonaws.com`
- `*.sso.amazonaws.com`
- `*.sso.*.amazonaws.com`
- `*.sso-portal.*.amazonaws.com`
- `*.signin.aws`
- `*.cloudfront.net`
- `opfcaptcha-prod.s3.amazonaws.com`
- `profile.aws.amazon.com`

## AWS アカウント 管理者向けのセキュリティのベストプラクティス

新しい を作成したアカウント管理者の場合は AWS アカウント、ユーザーがサインインするときに AWS セキュリティのベストプラクティスに従うことができるように、次の手順を実行することをお勧めします。

1. ルートユーザーとしてサインインして [多要素認証 \(MFA\) を有効にし](#)、まだ作成していない場合は IAM アイデンティティセンターで [AWS 管理ユーザーを作成します](#)。それから、[ルートの認証情報を保護し](#)、日常的な作業には使わないようにしましょう。
2. AWS アカウント 管理者としてサインインし、次の ID を設定します。
  - 他の [ユーザー](#) のために [最小特権ユーザー](#) を作成します。
  - [ワークロード用の一時認証情報](#) を設定する。
  - アクセスキーは、[長期的な認証情報を必要とするユースケース](#) のためにのみ作成してください。
3. これらのアイデンティティへのアクセスを許可する権限を追加します。 [AWS 管理ポリシーの使用を開始し](#)、[最小特権のアクセス許可](#) に移行できます。
  - [IAM AWS アイデンティティセンター \(AWS シングルサインオンの後継\) ユーザーにアクセス許可セットを追加します](#)。
  - ワークロードに使用する IAM ロールに [アイデンティティベースのポリシー](#) を追加します。

- 長期的な認証情報を必要とするユースケースのために [IAM ユーザー向けのアイデンティティベースのポリシー](#)を追加します。
  - IAM ユーザーの詳細については、[IAM のセキュリティのベストプラクティス](#)を参照してください。
4. [にサインインする AWS マネジメントコンソール](#) に関する情報を保存して共有する。この情報は、作成したアイデンティティのタイプによって異なります。
  5. アカウントやセキュリティに関する重要な通知を受け取れるように、ルートユーザーのメールアドレスとプライマリアカウントの連絡先電話番号は常に最新の状態にしておいてください。
    - [AWS アカウントのルートユーザーのアカウント名、E メールアドレス、パスワードの変更](#)。
    - [プライマリアカウント連絡先のアクセスまたは更新](#)
  6. アイデンティティとアクセス管理のその他のベストプラクティスについては、「[IAM のセキュリティのベストプラクティス](#)」をご覧ください。

## にサインインする AWS マネジメントコンソール

メインサインイン URL (<https://console.aws.amazon.com/>) AWS マネジメントコンソール からに AWS サインインするときは、ルートユーザーまたは IAM ユーザーのいずれかのユーザータイプを選択する必要があります。自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

[ルートユーザー](#)は無制限にアカウントにアクセスでき、AWS アカウントの作成者と関連付けられています。次に、ルートユーザーは IAM ユーザーや AWS IAM アイデンティティセンターのユーザーなどの他のタイプのユーザーを作成し、アクセス認証情報を割り当てます。

[IAM ユーザー](#)は、特定のカスタムアクセス許可 AWS アカウント を持つ内の ID です。IAM ユーザーがサインインすると、メインサインイン URL [https://account\\_alias\\_or\\_id.signin.aws.amazon.com/console/](https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/)の代わりに、AWS アカウント または エイリアスを含む AWS サインイン URL を使用できます<https://console.aws.amazon.com/>。

では、1つのブラウザで最大5つの異なる ID に同時にサインインできます AWS マネジメントコンソール。これらは、異なるアカウントまたは同じアカウントのルートユーザー、IAM ユーザー、またはフェデレーションロールの組み合わせです。詳細については、「AWS マネジメントコンソール入門ガイド」の「[複数の入門ガイドアカウントへのサインイン](#)」を参照してください。

### チュートリアル

- [ルートユーザー AWS マネジメントコンソール としてにサインインする](#)
- [IAM ユーザー AWS マネジメントコンソール としてにサインインする](#)

自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

### チュートリアル

- [ルートユーザー AWS マネジメントコンソール としてにサインインする](#)
- [IAM ユーザー AWS マネジメントコンソール としてにサインインする](#)

# ルートユーザー AWS マネジメントコンソール として にサインインする

を初めて作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての およびリソースへの AWS のサービス 完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。

## Important

日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー資格情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー資格情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

## ルートユーザーとしてサインインする

AWS マネジメントコンソールで別の ID に既にサインインしているときに、ルートユーザーとしてサインインできます。詳細については、「AWS マネジメントコンソール 入門ガイド」の「[複数の入門ガイドアカウントへのサインイン](#)」を参照してください。

AWS アカウント を使用した 管理にはルートユーザー認証情報がない AWS Organizations 可能性があるため、管理者に連絡してメンバーアカウントでルートユーザーアクションを実行する必要があります。ルートユーザーとしてサインインできない場合は、「[サインインに関する問題 AWS アカウントのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

1. AWS マネジメントコンソール で を開きます <https://console.aws.amazon.com/>。

## Note

以前にこのブラウザを使用して IAM ユーザーとしてサインインしたことがある場合は、代わりに IAM ユーザーのサインインページが表示される場合があります。[ルートユーザーの E メールを使用してサインイン] を選択します。

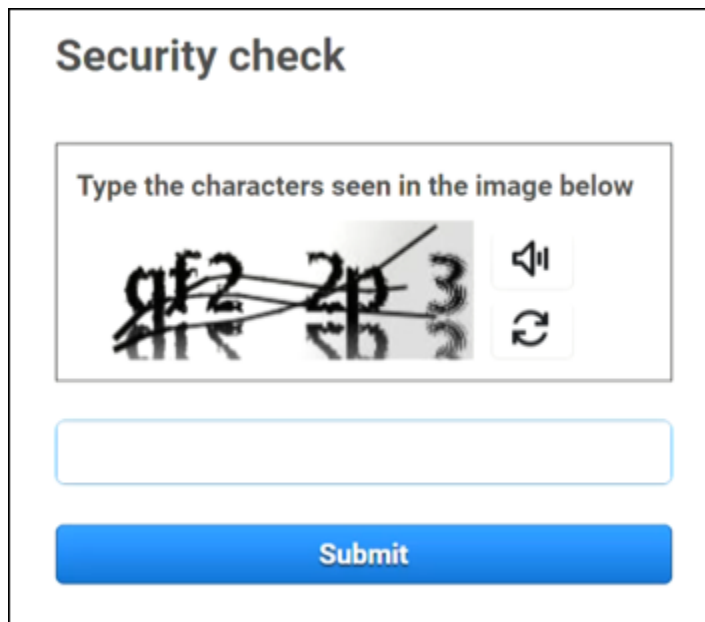
2. [ルートユーザー] を選択します。

The screenshot shows the 'Sign in' page with two radio button options: 'Root user' (selected) and 'IAM user'. Below the options is a text input field for the 'Root user email address' containing 'username@example.com'. A blue 'Next' button is at the bottom.

3. [ルートユーザーの E メールアドレス]に、ルートユーザーに関連付けられている E メールアドレスを入力します。[次へ]を選択します。
4. セキュリティチェックを完了するように求められたら、表示された文字を入力して続行します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞くか、新しい文字セットのセキュリティチェックを更新してみてください。

**i** Tip

表示される (または聞こえる) 英数字を、スペースを入れずに順番に入力します。



The image shows a 'Security check' screen. At the top, it says 'Security check'. Below that, there is a box with the text 'Type the characters seen in the image below'. Inside this box is a CAPTCHA image showing the numbers '2', '2', and '3' with some noise and a diagonal line. To the right of the image are two icons: a speaker icon and a refresh icon. Below the CAPTCHA box is a text input field. At the bottom of the screen is a blue 'Submit' button.

5. パスワードを入力します。



The image shows a 'Root user sign in' screen. At the top, it says 'Root user sign in' with an information icon. Below that, it says 'Email: *username@example.com*'. There is a 'Password' label and a 'Forgot password?' link. Below these is a text input field for the password. At the bottom of the screen is a blue 'Sign in' button. Below the button are two links: 'Sign in to a different account' and 'Create a new AWS account'.

6. MFA で認証します。MFA は、デフォルトでルートユーザーに強制されます。スタンドアロンアカウントとメンバーアカウントのルートユーザーの場合、MFA を手動で有効にする必要があります、これを強くお勧めします。詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[AWS アカウント ルートユーザーの多要素認証](#)」を参照してください。

**i** Tip

セキュリティのベストプラクティスとして、不正使用を防ぐために、AWS 組織のメンバーアカウントからすべてのルートユーザー認証情報を削除することをお勧めします。このオプションを選択した場合、メンバーアカウントはルートユーザーとしてサインインしたり、パスワード復旧を実行したり、MFA を設定したりすることはできません。この場合、管理アカウント管理者のみが、メンバーアカウントのルートユーザー認証情報を必要とするタスクを実行できます。詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[メンバーアカウントのルートアクセスを一元管理する](#)」を参照してください。

7. [サインイン] を選択します。AWS マネジメントコンソール が表示されます。

認証後、AWS マネジメントコンソール コンソールのホームページが開きます。

## 追加情報

AWS アカウント ルートユーザーに関する詳細情報が必要な場合は、次のリソースを参照してください。

- ルートユーザーの概要については、「[AWS アカウント ルートユーザー](#)」を参照してください。
- ルートユーザーの使用の詳細については、[AWS アカウント 「ルートユーザーの使用」](#)を参照してください。
- ルートユーザーのパスワードをリセットする手順については、「[のルートユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)」を参照してください。

## IAM ユーザー AWS マネジメントコンソール として にサインインする

[IAM ユーザー](#)は、AWS リソースを操作するアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内で作成された ID です。IAM ユーザーは、アカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを使ってサインインします。IAM ユーザー名は管理者によって設定されます。IAM ユーザー名は、*Zhang* などのわかりやすい名前でも、*zhang@example.com* などの E メールアドレスでもかまいません。IAM ユーザー名にスペースを含めることはできませんが、大文字、小文字、数字、+ = , . @ \_ - などの記号を使用できます。

**i** Tip

IAM ユーザーが多要素認証 (MFA) を有効にしている場合は、認証デバイスへのアクセス権が必要です。詳細については、「[IAM サインインページで MFA デバイスを使用する](#)」を参照してください。

## IAM ユーザーとしてサインインするには

AWS マネジメントコンソールで別の ID に既にサインインしている場合は、IAM ユーザーとしてサインインできます。詳細については、「AWS マネジメントコンソール 入門ガイド」の「[複数の入門ガイドアカウントへのサインイン](#)」を参照してください。

1. AWS マネジメントコンソールで を開きます <https://console.aws.amazon.com/>。
2. メインサインインページが表示されます。アカウント ID (12 桁) またはエイリアス、IAM ユーザー名、パスワードを入力します。

**i** Note

現在のブラウザで IAM ユーザーとして以前にサインインしたことがある場合、またはアカウントのサインイン URL を使用している場合は、アカウント ID やエイリアスを入力する必要がない場合があります。

3. [サインイン] を選択します。
4. IAM ユーザーに対して MFA が有効になっている場合、は認証ツールで ID を確認 AWS する必要があります。詳細については、「[AWSで多要素認証 \(MFA\) を使用する](#)」を参照してください。

認証後、AWS マネジメントコンソール コンソールのホームページが開きます。

### 追加情報

IAM ユーザーの詳細については、以下のリソースを参照してください。

- IAM の概要については、「[アイデンティティとアクセス管理とは](#)」を参照してください。
- AWS アカウント IDs 「[AWS アカウント ID とそのエイリアス](#)」を参照してください。
- IAM ユーザーパスワードをリセットする方法の手順については、「[の IAM ユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)」を参照してください。

# AWS アクセスポータルにサインインする

IAM Identity Center のユーザーは のメンバーです AWS Organizations。IAM Identity Center のユーザーは、特定のサインイン URL を使用して AWS アクセスポータルにサインインすることで、複数の AWS アカウント およびビジネスアプリケーションにアクセスできます。特定のサインイン URL の詳細については、「[AWS アクセスポータル](#)」を参照してください。

IAM Identity Center のユーザー AWS アカウント として にサインインする前に、以下の必須情報を収集します。

- 企業ユーザー名
- 企業パスワード
- 特定のサインイン URL

## Note

サインインすると、AWS アクセスポータルセッションは 8 時間有効です。8 時間後に再度サインインする必要があります。

## AWS アクセスポータルにサインインするには

1. ブラウザのウィンドウに、[https://your\\_subdomain.awsapps.com/start](https://your_subdomain.awsapps.com/start) のような電子メールで提供されたサインイン URL を貼り付けます。次に、エンター キーを押します。
2. 企業認証情報 (ユーザー名とパスワードなど) を使ってサインインします。

## Note

管理者から E メールでワンタイムパスワード (OTP) が送信され、初めてサインインする場合は、そのパスワードを入力します。サインインしたら、今後のサインイン用に新しいパスワードを作成する必要があります。

3. 認証コードの入力を求められた場合は、E メールを確認してください。次に、コードをコピーしてサインインページに貼り付けてください。

**Note**

認証コードは通常、Eメールで送信されますが、配信方法が異なる場合があります。Eメールで認証コードを受け取っていない場合は、管理者に認証コードの詳細を確認してください。

4. IAM アイデンティティセンターでユーザーの MFA が有効になっている場合は、それを使用して認証します。
5. 認証後、ポータルに表示される任意の AWS アカウント およびアプリケーションにアクセスできます。
  - a. にサインインするには、AWS マネジメントコンソール「アカウント」タブを選択し、管理する個々のアカウントを選択します。

ユーザーのロールが表示されます。アカウントのロール名を選択して AWS マネジメントコンソールを開きます。アクセスキーを選択して、コマンドラインまたはプログラムによるアクセスの認証情報を取得します。
  - b. [アプリケーション] タブを選択して使用可能なアプリケーションを表示し、アクセスするアプリケーションのアイコンを選択します。

IAM アイデンティティセンターにユーザーとしてサインインすると、セッションと呼ばれる一定の期間、リソースにアクセスするための認証情報が提供されます。デフォルトでは、ユーザーが AWS アカウント にサインインできる時間は 8 時間です。IAM Identity Center 管理者は、最小 15 分から最大 90 日までの期間を指定できます。セッションが終了した後は、再びサインインできます。

## 追加情報

IAM アイデンティティセンターのユーザーについての情報は、以下のリソースを参照してください。

- IAM アイデンティティセンターの概要については、「[IAM アイデンティティセンターとは](#)」を参照してください。
- AWS アクセスポータルの詳細については、[AWS 「アクセスポータルの使用」](#)を参照してください。
- IAM アイデンティティセンターのセッションの詳細については、「[ユーザー認証](#)」を参照してください。

- IAM アイデンティティセンターのユーザーパスワードをリセットする手順については、「[の IAM Identity Center パスワードを忘れました AWS アカウント](#)」を参照してください。
- お客様またはお客様の組織が IP またはドメインフィルタリングを実装している場合、AWS アクセスポータルを作成および使用するドメインを許可リストに登録する必要がある場合があります。ドメインの許可リストの詳細については、[許可リストに追加するドメイン](#) を参照してください。

# を使用してサインインする AWS Command Line Interface

による AWS CLI 認証方法を確立する必要があります AWS。ワークフローとセキュリティ要件に最適な方法を選択します。

- [コンソール認証情報を使用してログインする \(推奨\)](#) AWS アカウントアクセスに root、IAM ユーザー、または IAM とのフェデレーションを使用する場合。
- [IAM Identity Center 認証情報を使用してログインする](#) AWS アカウントアクセスに Identity Center を使用する場合。

## コンソール認証情報を使用してログインする (推奨)

この認証方法では、でコンソール認証情報を使用できるため AWS CLI、アカウントのセットアップから数分以内に AWS プログラムで を簡単に開始できます。、 AWS SDKs AWS CLI、などのローカル開発ツール間でシームレスに動作する一時的な認証情報を取得できます AWS Tools for PowerShell。

### 前提条件

- をインストールします AWS CLI。詳細については、「[AWS CLIの最新バージョンのインストールまたは更新](#)」を参照してください。aws login コマンドを使用するには、2.32.0 以降のバージョンが必要です。
- ルートユーザー、IAM ユーザー AWS マネジメントコンソール、または IAM とのフェデレーションを通じて にサインインするためのアクセス。IAM Identity Center を使用する場合は、代わりに「[IAM Identity Center 認証情報を使用してログインする](#)」を参照してください。
- IAM ID に適切なアクセス許可があることを確認します。[SignInLocalDevelopmentAccess](#) 管理ポリシーを IAM ユーザー、ロール、またはグループにアタッチします。ルートユーザーとしてサインインする場合、追加のアクセス許可は必要ありません。


コンソール認証情報を使用してログインするには

1. 次のコマンドを実行して、ブラウザベースの認証プロセスを開始します。

```
$ aws login
```

aws login コマンドは、いくつかのオプションパラメータをサポートしています。

- `aws login --remote` - デバイスがブラウザをサポートしていない場合のクロスデバイス認証

 Note

同一デバイス (`aws login`) 認証およびデバイス間 (`aws login --remote`) 認証へのアクセスを制御できます。関連する IAM ポリシーで次のリソース ARN を使用します。

- `arn:aws:signin:region:account-id:oauth2/public-client/localhost` - この ARN は、`aws login` による同一デバイス認証に使用します。
- `arn:aws:signin:region:account-id:oauth2/public-client/remote` - この ARN は、`aws login --remote` によるデバイス間認証に使用します。

- `aws login --profile profile-name` - 特定のプロファイルで認証するには
  - `aws login --region region` - 特定のリージョンで認証するには
2. ターミナルのプロンプトに従います。コマンドによってデフォルトのブラウザが自動的に開き、認証プロセスが案内されます。認証に成功すると、AWS CLI セッションは最大 12 時間有効です。
  3. セッションを終了するには、以下を使用します。

```
$ aws logout
```

を使用してプログラムで AWS サービスにアクセスする場合は [AWS Tools for PowerShell](#)、[「AWS Tools for PowerShell with AWS」](#) を参照してください。AWS SDKs [「AWS SDKs」](#) を参照してください。

## IAM Identity Center 認証情報を使用してログインする

AWS アクセスポータルを使用すると、IAM Identity Center ユーザーは を選択し AWS アカウント、の一時的なセキュリティ認証情報を簡単に取得できます AWS CLI。これらの認証情報を取得する方法の詳細については、「[のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID](#)」を参照してください。IAM Identity Center でユーザーを認証するように AWS CLI を直接設定することもできます。

IAM Identity Center 認証情報を使用してログインするには

1. [前提条件](#)を満たしていることを確認してください。
2. 初めてサインインする場合は、[aws configure sso](#) ウィザードを使用してプロファイルを設定してください。
3. プロファイルを設定したら、次のコマンドを実行し、ターミナルのプロンプトに従います。

```
$ aws sso login --profile my-profile
```

## 追加情報

コマンドラインを使用したサインインの詳細については、次のリソースを参照してください。

- コンソール認証情報を使用して AWS ローカル開発にログインする方法の詳細については、「[AWS CLI の認証とアクセス認証情報](#)」を参照してください。
- AWS CLI サインインプロセスの詳細については、「[の短期認証情報による認証 AWS CLI](#)」を参照してください。
- IAM Identity Center の設定の詳細については、「[IAM Identity Center を使用する AWS CLI ようにを設定する](#)」を参照してください。

# フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン

フェデレーテッドアイデンティティは、外部 ID を持つ安全な AWS アカウント リソースにアクセスできるユーザーです。外部認証は、企業の ID ストア (LDAP や Windows の Active Directory など) またはサードパーティー (Login with Amazon、Facebook、または Google でのログインなど) から取得できます。フェデレーテッド ID は、AWS マネジメントコンソール または AWS アクセスポータルでサインインしません。使用する外部アイデンティティのタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。

管理者は、<https://signin.aws.amazon.com/federation> を含むカスタム URL を作成する必要があります。詳細については、「[AWS マネジメントコンソールへのカスタムアイデンティティブローカーアクセスの有効化](#)」を参照してください。

## Note

管理者はフェデレーション ID を作成します。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーテッドアイデンティティの詳細については、「[ウェブ ID フェデレーションについて](#)」を参照してください

# でサインインする AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、[Amazon CodeCatalyst](#)、[Amazon Q Developer](#)、および [AWS トレーニング Certification](#) などの一部のツールやサービスへのアクセスを提供する個人プロフィールです。はユーザーを個人として AWS ビルダー ID 表し、既存の AWS アカウントにある認証情報やデータから独立しています。他の個人プロフィールと同様に、は、個人、教育、キャリアの目標を進めるにつれて、お客様と共に AWS ビルダー ID 残ります。

は、すでに所有 AWS アカウントしている、または作成する可能性のあるものを AWS ビルダー ID 補完します。は、作成した AWS リソースのコンテナ AWS アカウントとして機能し、それらのリソースのセキュリティ境界を提供しますが、はユーザーを個人として AWS ビルダー ID 表します。詳細については、「[AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)」を参照してください。

AWS ビルダー ID は無料です。で消費する AWS リソースに対してのみ料金が発生します AWS アカウント。料金の詳細については、「[AWS 料金表](#)」を参照してください。

お客様またはお客様の組織が IP またはドメインフィルタリングを実装する場合、ドメインを許可リストに登録して、AWS ビルダー ID を作成して使用する必要があります。ドメインの許可リストの詳細については、[許可リストに追加するドメイン](#) を参照してください。

## Note

AWS Builder ID AWS は、AWS エキスパートから学び、クラウドスキルをオンラインで構築できるオンライン学習センターである Skill Builder サブスクリプションとは異なります。AWS Skill Builder の詳細については、「[AWS Skill Builder](#)」を参照してください。

## トピック

- [でサインインするには AWS ビルダー ID](#)
- [のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID](#)
- [を作成する AWS ビルダー ID](#)
- [AWS を使用するツールとサービス AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID プロファイルを編集する](#)
- [AWS ビルダー ID パスワードを変更する](#)
- [のすべてのアクティブなセッションを削除する AWS ビルダー ID](#)

- [を削除する AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#)
- [のプライバシーとデータ AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)

## でサインインするには AWS ビルダー ID

1. アクセスする AWS ツールまたはサービスの[AWS ビルダー ID プロファイル](#)またはサインインページに移動します。例えば、Amazon CodeCatalyst にサインインするには、<https://codecatalyst.aws> にアクセスします。
2. にサインインする方法を選択する AWS ビルダー ID
  - [既存のアカウントがある場合](#)
  - [Google アカウントを持っている](#)
  - [Apple アカウントを持っている](#)
  - [GitHub アカウントを持っている](#)
  - [Amazon アカウントを持っている](#)

### 既存のアカウントがある場合

1. 既存のアカウントの場合は、 の作成に使用した E メールを入力し AWS ビルダー ID、サインインを選択します。
2. の作成に使用した E メールを入力し AWS ビルダー ID、サインインを選択します。
3. [AWS ビルダー IDでサインイン] ページで、[パスワード] を入力します。
4. (オプション) このデバイスから今後のサインインしたときに追加の確認を求められないようにするには、[信頼できるデバイスです]の横にあるボックスをチェックします。
5. [続行] をクリックしてください。
6. [追加認証が必要] ページが表示された場合は、ブラウザの指示に従って必要なコードまたはセキュリティキーを入力してください。

**Note**

セキュリティのため、ログインブラウザ、場所、デバイスを分析します。このデバイスを信頼していると報告した場合、サインインするたびに多要素認証 (MFA) コードを入力する必要はありません。詳細については、「[信頼されたデバイス](#)」を参照してください。

## Google アカウントを持っている

Google アカウントが既に に関連付けられている場合は AWS ビルダー ID、別の E メールアドレスを使用してアプリケーションにサインインする必要があります。詳細については、「[Google でサインインできない](#)」を参照してください。

1. Google アカウントを使用して にサインインするには AWS ビルダー ID、Google で続行を選択します。
2. Google でサインイン ページで、Google アカウントがサインインするための情報を入力します。
3. 続行を選択して AWS アプリケーションのホームページをロードします。

## Apple アカウントを持っている

Apple アカウントが既に に関連付けられている場合は AWS ビルダー ID、別の E メールアドレスを使用してアプリケーションにサインインする必要があります。詳細については、「[Apple でサインインできない](#)」を参照してください。

1. Apple アカウントを使用して にサインインするには AWS ビルダー ID、「Apple で続行」を選択します。
2. 「Apple でサインイン」ページで、Apple アカウントがサインインする情報を入力します。
3. 「続行」を選択して AWS アプリケーションのホームページをロードします。

## GitHub アカウントを持っている

GitHub アカウントが既に に関連付けられている場合は AWS ビルダー ID、別の E メールアドレスを使用してアプリケーションにサインインする必要があります。詳細については、「[GitHub でサインインできない](#)」を参照してください。

1. GitHub アカウントを使用して「にサインインするには AWS ビルダー ID、GitHub で続行」を選択します。
2. GitHub でサインインページで、サインインする GitHub アカウントの情報を入力します。
3. 続行を選択して AWS アプリケーションのホームページをロードします。

## Amazon アカウントを持っている

Amazon アカウントが既にに関連付けられている場合は AWS ビルダー ID、別の E メールアドレスを使用してアプリケーションにサインインする必要があります。詳細については、「[Amazon でサインインできない](#)」を参照してください。

1. Amazon アカウントを使用して「にサインインするには AWS ビルダー ID、「Amazon で続行」を選択します。
2. Amazon でサインイン ページで、Amazon アカウントがサインインするための情報を入力します。
3. 続行を選択して AWS アプリケーションのホームページをロードします。

## のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は以下の で利用できます AWS リージョン。を使用するアプリケーションは AWS ビルダー ID、他のリージョンで動作する可能性があります。

名前	コード
米国東部 (バージニア北部)	us-east-1

## を作成する AWS ビルダー ID

を使用する AWS ツールやサービスのいずれかにサインアップ AWS ビルダー ID するときに、を作成します。AWS ツールまたはサービスのサインアッププロセスの一環として、E メールアドレス、名前、パスワードでサインアップします。

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。

- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a～z
  - 大文字 A～Z
  - 数字 (0～9)
  - 英数字以外の文字 (~!@#\$%^&\* \_-+=`|(){};:~'"<>,.?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

**Note**

を使用するツールとサービスは AWS ビルダー ID、AWS ビルダー ID 必要に応じて を作成して使用します。

を作成するには AWS ビルダー ID

1. アクセスする AWS ツールまたはサービスの [AWS ビルダー ID プロファイル](#) またはサインアップページに移動します。例えば、Amazon CodeCatalyst にサインインするには、<https://codecatalyst.aws> にアクセスします。
2. の作成方法を選択する AWS ビルダー ID
  - Google アカウントを使用するには、Google で続行を選択し、プロンプトに従ってサインアッププロセスを完了します。これにより、以下のステップ 3～8 を省略します。ステップ 9 に進みます。
  - Apple アカウントを使用するには、「Apple で続行」を選択し、プロンプトに従ってサインアッププロセスを完了します。これにより、以下のステップ 3～8 を省略します。ステップ 9 に進みます。

**Note**

Sign in with Apple で iCloud+ の「Eメールの非表示」機能を有効にすると、AWS ビルダー ID は実際の E メールアドレスではなく、Apple アカウントで指定された E メールアドレスの非表示で作成されます。この E メールアドレスを変更することはできませんが、姓名は編集可能です。にサインインする必要がある場合は AWS ビルダー ID、E メールアドレスの非表示を使用する必要があります。AWS ビル

ダー ID は E メール通信の送信に E メールアドレスの非表示を使用します。詳細については、[「Apple でサインインして E メールを非表示にする」](#)を参照してください。

- GitHub アカウントを使用するには、GitHub で続行を選択し、プロンプトに従ってサインアッププロセスを完了します。これにより、以下のステップ 3~8 を省略します。ステップ 9 に進みます。
  - Amazon アカウントを使用するには、「Amazon で続行」を選択し、プロンプトに従ってサインアッププロセスを完了します。これにより、以下のステップ 3~8 を省略します。ステップ 9 に進みます。
  - E メールとパスワードを使用してアカウントを作成するには、次のステップに進みます。
3. [AWS ビルダー IDを作成] ページで、[メールアドレス] を入力します。個人用の E メールを使用することをお勧めします。
  4. 次へをクリックします。
  5. [お名前]を入力し、[次へ]を選択します。
  6. E メール確認ページで、E メールアドレスに送信された確認コードを入力します。確認を選択します。E メールプロバイダーによっては、Eメールの受信まで数分かかる場合があります。スパムフォルダと迷惑メールフォルダにコードがないか確認してください。5分 AWS 経ってもからの E メールが表示されない場合は、コードの再送信を選択します。
  7. お客様のEメールを確認した後、パスワードの選択ページで、パスワードとパスワードの確認を入力してください。
  8. セキュリティ強化として キャプチャが表示される場合は、表示されている文字を入力してください。
  9. [作成] AWS ビルダー ID を選択します。

## 信頼されたデバイス

サインインページで This is a trusted device(これは信頼できるデバイスです) というオプションを選択すると、そのデバイスのそのウェブブラウザからの今後のすべてのサインインを承認されたものとみなします。つまり、信頼できるデバイスには MFA コードを入力する必要がないということです。ただし、ブラウザ、Cookie、または IP アドレスが変更された場合は、MFA コードを使用して追加の認証を行う必要がある場合があります。

# AWS を使用するツールとサービス AWS ビルダー ID

を使用してサインイン AWS ビルダー ID すると、次の AWS ツールやサービスにアクセスできます。料金で提供される機能や利点にアクセスするには、[が必要で AWS アカウント](#)。

デフォルトでは、[を使用して](#) AWS ツールまたはサービスにサインインすると AWS ビルダー ID、セッション期間は 90 日間のセッション期間を持つ Amazon Q Developer を除き、30 日間続きます。セッションが終了すると、再びサインインする必要があります。

## AWS クラウドコミュニティ

[Community.aws](#) は、[と](#) AWS ビルダーコミュニティがアクセスできるプラットフォームです AWS ビルダー ID。ここでは、教育コンテンツの検索、個人的な考えやプロジェクトの共有、他のユーザーの投稿へのコメント、お気に入りのビルダーの参照を行うことができます。

## Amazon CodeCatalyst

[Amazon CodeCatalyst](#) の使用を開始する AWS ビルダー ID ときに [を作成し](#)、問題、コードコミット、プルリクエストなどのアクティビティに関連付けられるエイリアスを選択します。チームが次のプロジェクトを成功させるために必要なツール、インフラストラクチャ、環境が揃っている Amazon CodeCatalyst スペースに他の人を招待できます。新しいプロジェクトをクラウドにデプロイ AWS アカウント するには、[が必要で](#)す。

## AWS Migration Hub

を使用して [AWS Migration Hub](#) (Migration Hub) にアクセスします AWS ビルダー ID。Migration Hub を使用すると、1 か所で既存のサーバーを検出し、移行を計画して、各アプリケーションの移行ステータスを追跡できます。

## Amazon Q Developer

Amazon Q Developer は、生成 AI を活用した会話アシスタントであり、AWS アプリケーションの理解、構築、拡張、運用に役立ちます。詳細については、「Amazon Q Developer ユーザーガイド」の「[Amazon Q Developer とは](#)」を参照してください。

## AWS re:Post

[AWS re:Post](#) は専門的な技術ガイダンスを提供するため、AWS サービスを使用してより迅速にイノベーションを起こし、運用効率を向上させることができます。[でサインイン](#) AWS ビルダー ID し、AWS アカウント または クレジットカードなしで re:Post でコミュニティに参加できます。

## AWS スタートアップ

AWS ビルダー ID を使用して [AWS スタートアップ](#) に参加し、学習コンテンツ、ツール、リソース、サポートを使用してスタートアップを成長させることができます AWS。

### AWS トレーニング および 認定

を使用して AWS ビルダー ID、[AWS Skill Builder](#) で AWS クラウド スキルを構築し、AWS エキスパートから学び、業界で認められている認証情報を使用してクラウドの専門知識を検証できる [AWS トレーニング および 認定](#) にアクセスできます。

### Kiro

[Kiro](#) は、仕様駆動型開発を使用してプロトタイプから本番稼働に移行するのに役立つエージェント IDE です。Kiro は、シンプルなタスクから複雑なタスクまで、プロンプトを詳細な仕様へ、そして作業コード、ドキュメント、テストに変換します。Kiro では、構築する内容がまさに目的であり、チームと共有する準備が整います。Kiro のエージェントは、困難な問題を解決し、ドキュメントやユニットテストの生成などのタスクを自動化するのに役立ちます。Kiro を使用すると、プロトタイプを超えた開発を行いながら、あらゆる工程で主導権を握ることができます。

### ウェブサイト登録ポータル (WRP)

を [AWS マーケティングウェブサイト](#) の永続的な顧客 ID および登録プロフィール AWS ビルダー ID として使用できます。新しいウェビナーに登録したり、登録または参加したすべてのウェビナーを視聴したりするには、「[マイウェビナー](#)」を参照してください。

## AWS ビルダー ID プロフィールを編集する

プロフィールの情報はいつでも変更できます。の作成に使用した E メールアドレスと名前 AWS ビルダー ID、およびニックネームを編集できます。Google や Apple などのソーシャルログインを使用する場合、名前とニックネームのみが編集可能です。

[名前] は、他の人と交流するときに、ツールやサービスでどのように呼ばれるかを表します。ニックネームは、密接に協力する人 AWS、友人、その他の人々にどのように知られたいかを示します。

#### Note

を使用するツールとサービスは AWS ビルダー ID、AWS ビルダー ID 必要に応じて を作成して使用します。

## プロフィール情報を編集するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、プロフィールの隣にある **編集** を選択します。
4. プロフィールの編集ページで、名前と ニックネームに必要な変更を加えます。
5. 変更の保存をクリックします。プロフィールの更新が完了したことを知らせる緑色の確認メッセージが表示されます。

### Note

他のサインインパートナーのいずれかで名前とニックネームを変更しても、AWS ビルダー ID の設定には反映されません。

## 連絡先情報を編集するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、連絡先情報の横にある **編集ボタン** を選択します。
4. 連絡先情報の編集 ページで、メールアドレスを変更します。
5. **[メールを確認]** を選択します。ダイアログボックスが表示されます。
6. E メールでコードを受け取ったら、**[Eメールの確認]** ダイアログボックスの **[認証コード]** にそのコードを入力します。確認を選択します。

## AWS ビルダー ID パスワードを変更する

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a~z
  - 大文字 A~Z

- 数字 (0～9)
- 英数字以外の文字 (~!@#\$\$%^&\*\_-+=`|()\{};:;'"<>,.?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。

### Note

パスワードの変更は、Google や Apple などのソーシャルログインを使用する AWS ビルダー ID アカウントでは使用できません。ソーシャルログインを使用してサインインした場合は、ソーシャルログインアカウントを使用してパスワードを管理します。ソーシャルログインのパスワードを変更するには:

- Google アカウントについては、[「\(Google\) パスワードの変更またはリセット」](#)を参照してください。
- Apple アカウントについては、[「Apple アカウントのパスワードを変更する」](#)を参照してください。
- GitHub アカウントについては、[GitHub アクセス認証情報の更新](#)を参照してください。
- Amazon アカウントについては、[「Amazon パスワードの変更方法」](#)を参照してください。

AWS ビルダー ID パスワードを変更するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、パスワードの変更を選択します。これにより、新しいページに移動します。
4. パスワードの再入力ページのパスワードに、現在のパスワードを入力します。次に [サインイン] を選択します。
5. [パスワードの変更] ページの [新しいパスワード] で、使用したい新しいパスワードを入力します。次に、[パスワードの確認] に、使用したい新しいパスワードを再入力します。
6. その後、[パスワードの変更] をクリックします。AWS ビルダー ID プロフィールにリダイレクトされます。

## のすべてのアクティブなセッションを削除する AWS ビルダー ID

[ログイン中のデバイス] には、現在ログインしているすべてのデバイスを表示できます。デバイスがわからない場合は、セキュリティ上のベストプラクティスとして、まず [パスワードを変更してから](#)、すべてのデバイスからサインアウトしてください。AWS ビルダー ID ビルダー ID の [セキュリティ] ページでは、アクティブなセッションをすべて削除することで、すべてのデバイスからサインアウトできます。

### Note

AWS ビルダー ID は、IDE で Amazon Q Developer の 90 日間の延長セッションをサポートします。新しい IDE サインインごとに、2 つのセッションエントリを表示できます。IDE からサインアウトすると、有効ではなくなった IDE セッションも [サインインしたデバイス] に引き続き表示されます。これらのセッションは、90 日間の期限が切れると表示されなくなります。

すべてのアクティブなセッションを削除するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、すべてのアクティブなセッションを削除 を選択します。
4. [すべてのセッションを削除] ダイアログボックスで、全て削除と入力します。すべてのセッションを削除することで、さまざまなブラウザなど AWS ビルダー ID、を使用してサインインしたすべてのデバイスからサインアウトできます。次に [すべてのセッションを削除] を選択します。

### Note

Google や Apple などのソーシャルログインアカウントを使用する場合、アクティブな AWS ビルダー ID セッションを削除しても、ソーシャルログインアカウントからログアウトされることはありません。

## を削除する AWS ビルダー ID

次の手順では、AWS ビルダー ID アカウントを削除する方法について説明します。

**⚠ Warning**

を削除すると AWS ビルダー ID、次のようになります。

- アクセスの喪失 – を通じて以前にアクセスした AWS ツールやサービスにアクセスできなくなります AWS ビルダー ID。AWS ビルダー ID は所有している AWS アカウントとは別のものであり、を削除しても AWS アカウント AWS ビルダー ID は閉鎖されません。
- コンテンツの削除 – にのみ関連付けられている残りのコンテンツ AWS ビルダー ID は削除され、を使用してアプリケーションからコンテンツにアクセスまたは復元できなくなります AWS ビルダー ID。
- 個人情報の削除 – の作成と管理に関連して提供した個人情報 AWS ビルダー ID は削除されます。ただし、削除リクエストの記録や個人を特定できない形式のデータなど、法律で要求または許可されている個人情報は保持 AWS される場合があります。

AWS がお客様の情報を処理する方法の詳細については、[AWS プライバシー通知](#)を参照してください。[AWS Communications Preferences Center](#) にアクセスして、AWS 通信設定を更新したり、サブスクリプションを解除したりできます。

- ソーシャルログインアカウントは変更されません – Google や Apple などのソーシャルログインを使用している場合、を削除 AWS ビルダー ID しても、ソーシャルログインアカウントに関連するものは削除されません。これらのアカウントを削除する方法については、ソーシャルログインプロバイダーのドキュメントを参照してください。ソーシャルログインアカウントから AWS ビルダー ID 接続を削除しても AWS ビルダー ID アカウントは削除されませんが、AWS ビルダー ID プロファイルにアクセスできなくなります。

を削除するには AWS ビルダー ID

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. プライバシーとデータを選択します。
3. [プライバシーとデータ] ページで、[削除 AWS ビルダー ID] の下に [削除 AWS ビルダー ID] を選択します。
4. 各免責事項の横にあるチェックボックスを選択し、続行する準備ができていることを確認します。
5. [Delete] AWS ビルダー ID (削除) をクリックします。

# AWS ビルダー ID 多要素認証 (MFA) の管理

多要素認証 (MFA) は、セキュリティを強化するためのシンプルで効果的なメカニズムです。1 つ目の要因であるパスワードは、ユーザーが記憶する秘密であり、知識要因とも呼ばれます。その他の要因としては、所有要因 (セキュリティキーなど、ユーザーが持っているもの) や継承要因 (生体認証スキャンなど、ユーザー自身のもの) があります。AWS ビルダー ID にレイヤーを追加するように MFA を設定することを強くお勧めします。

組み込みの認証アプリケーションを登録し、物理的に安全な場所に保管するセキュリティキーも登録することができます。組み込みの認証ソフトを使用できない場合は、登録済みのセキュリティキーを使用できます。認証アプリケーションについては、それらのアプリでクラウドバックアップまたは同期機能を有効にすることもできます。これにより、MFA デバイスを紛失または破損した場合に、プロフィールにアクセスできなくなることを防ぐことができます。

## 重要ポイント

- 複数の MFA デバイスを登録することをお勧めします。登録されているすべての MFA デバイスにアクセスできなくなると、AWS ビルダー ID の復元ができなくなります。
- 登録した MFA デバイスを定期的に見直して、最新で機能していることを確認することをお勧めします。また、これらのデバイスは、使用しないときは物理的に安全な場所に保管してください。
- [Google で続行] を使用してアカウントを作成した場合は、Google アカウントを通じて多要素認証を有効にできます。詳細については、「[2 段階認証を有効にする](#)」を参照してください。
- Continue with Apple を使用してアカウントを作成した場合は、Apple アカウントで多要素認証が既に有効になっている可能性があります。そうでない場合は、有効にする方法の詳細については、「[Apple アカウントの 2 要素認証](#)」を参照してください。
- Continue with GitHub を使用してアカウントを作成した場合は、GitHub アカウントを通じて多要素認証を有効にできます。詳細については、「[Configuring \(GitHub\) two-factor authentication](#)」を参照してください。
- Continue with Amazon を使用してアカウントを作成した場合は、Amazon アカウントを通じて多要素認証を有効にできます。詳細については、「[2 ステップ検証とは](#)」を参照してください。

## で使用できる MFA タイプ AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、次の多要素認証 (MFA) デバイスタイプをサポートしています。

## FIDO2 認証機能

[FIDO2](#) は CTAP2 と [WebAuthn](#) を含む標準であり、パブリックキー暗号に基づいています。FIDO 認証情報は、認証情報が作成された Web サイト (AWS など) 固有のものであるため、フィッシング詐欺に対して強固です。

AWS は、FIDO 認証の最も一般的なフォームファクタとして、組み込み認証とセキュリティキーの 2 つをサポートしています。FIDO 認証機能の最も一般的なタイプの詳細については、以下を参照してください。

### トピック

- [組み込みの認証機能](#)
- [セキュリティキー](#)
- [パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証システム](#)

### 組み込みの認証機能

MacBook の TouchID や、Windows Hello 対応のカメラなどの一部デバイスはビルトイン認証システムを装備しています。お使いのデバイスが WebAuthn を含む FIDO プロトコルと互換性がある場合は、指紋や顔を第二の要素として使用できます。詳細については、[FIDO 認証](#) を参照してください。

### セキュリティキー

FIDO2 対応の外付け USB、BLE、または NFC 接続のセキュリティキーを購入できます。MFA デバイスの入力を求められたら、キーのセンサーをタップします。YubiKey または Feitian は互換性のあるデバイスを製造しています。互換性のあるすべてのセキュリティキーのリストについては、[FIDO 認定製品](#) をご覧ください。

### パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証システム

複数のサードパーティプロバイダーが、パスワードマネージャー、FIDO モードのスマートカード、その他のフォームの要素の機能として、モバイルアプリケーションの FIDO 認証をサポートしています。これらの FIDO 互換デバイスは IAM Identity Center で動作しますが、このオプションを MFA で有効にする前に FIDO 認証機能をご自身でテストすることをお勧めします。

#### Note

FIDO 認証機能の中には、パスキーと呼ばれる検出可能な FIDO 認証情報を作成できるものもあります。パスキーは、パスキーを作成したデバイスにバインドされている場合もあれ

ば、同期可能でクラウドにバックアップされている場合もあります。例えば、サポートされている Macbook で Apple Touch ID を使ってパスキーを登録し、ログイン時に画面に表示される指示に従って iCloud のパスキーで Google Chrome を使って Windows ラップトップからサイトにログインできます。どのデバイスが同期可能なパスキーをサポートしている、オペレーティングシステムとブラウザ間の現在のパスキーの相互運用性をサポートしているの詳細は、FIDO アライアンスとワールドワイドウェブコンソーシアム (W3C) が管理するリソースである [passkeys.dev](https://passkeys.dev) の「[デバイスサポート](#)」を参照してください。

## 認証アプリケーション

認証アプリケーションは、ワンタイムパスワード (OTP) ベースのサードパーティー認証機能を備えています。モバイルデバイスやタブレットにインストールされた認証アプリケーションを、許可された MFA デバイスとして使用することができます。サードパーティー認証アプリケーションは、6 桁の認証コードを生成できる標準ベースのタイムベースドワンタイムパスワード (TOTP) アルゴリズムである RFC 6238 に準拠している必要があります。

MFA を求めるプロンプトが表示されたら、認証アプリケーションから有効なコードを入力ボックスに入力する必要があります。ユーザーに割り当てられた各 MFA デバイスは一意であることが必要です。1 人のユーザーに対して 2 つの認証アプリを登録することができます。

以下の有名なサードパーティの認証アプリケーションから選択できます。ただし、TOTP 準拠のアプリケーションは AWS ビルダー ID MFA で動作します。

オペレーティングシステム	テスト済みの認証アプリ
Android	<a href="#">1Password</a> 、 <a href="#">Authy</a> 、 <a href="#">Duo Mobile</a> 、 <a href="#">Microsoft Authenticator</a> 、 <a href="#">Google Authenticator</a>
iOS	<a href="#">1Password</a> 、 <a href="#">Authy</a> 、 <a href="#">Duo Mobile</a> 、 <a href="#">Microsoft Authenticator</a> 、 <a href="#">Google Authenticator</a>

## AWS ビルダー ID MFA デバイスを登録する

### Note

MFA にサインアップし、サインアウトしてから同じデバイスでサインインすると、信頼できるデバイスでは MFA の入力を求められない場合があります。

認証アプリケーションを使用して MFA デバイスを登録するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、デバイスの登録を選択します。
4. MFA デバイスの登録 ページで、認証アプリケーションを選択します。
5. AWS ビルダー ID は、QR コードグラフィックを含む設定情報を操作して表示します。図は、QR コードに対応していない認証アプリケーションでの手動入力に利用できる「シークレット設定キー」を示しています。
6. 認証アプリケーションを開きます。アプリのリストについては、「[認証アプリケーション](#)」を参照してください。

認証アプリケーションが複数の MFA デバイスまたはアカウントをサポートしている場合は、新しい MFA デバイスまたはアカウントを作成するオプションを選択します。

7. MFA アプリケーションが QR コードをサポートしているかどうかを判断し、認証アプリケーションの設定 ページで以下のいずれかの操作を行います。
  1. QR コードの表示を選択し、アプリケーションを使用して QR コードをスキャンします。例えば、カメラアイコンまたは スキャンコード に似たオプションを選択します。次に、デバイスのカメラでコードをスキャンします。
  2. シークレットキーを表示をクリックし、そのシークレットキーを MFA アプリケーションに入力します。

完了すると、認証アプリケーションがワンタイムパスワードを生成して表示します。

8. 認証システムコードボックスに、現在認証アプリケーションに表示されているワンタイムパスワードを入力します。MFA の割り当てを選択します。

**⚠ Important**

コードを生成したら、即時にリクエストを送信します。コードを生成し、リクエストの送信に時間がかかりすぎると、MFA デバイスは正常に関連付けられませんが AWS ビルダー ID、MFA デバイスは同期されません。これは、タイムベースドワンタイムパスワード (TOTP) の有効期間が短いために起こります。その場合は、デバイスの再同期ができます。詳細については、「[認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする](#)」、「[予期しないエラーが発生しました](#)」というメッセージが表示されます」を参照してください。

9. デバイスにわかりやすい名前を付けるには AWS ビルダー ID、名前の変更を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで、MFA デバイスを で使用する準備ができました AWS ビルダー ID。

## セキュリティキーを AWS ビルダー ID MFA デバイスとして登録する

セキュリティキーを使用して MFA デバイスを登録するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティページで、デバイスの登録を選択します。
4. MFA デバイスの登録ページで、セキュリティキーを選択します。
5. セキュリティキーが有効になっていることを確認します。別の物理セキュリティキーを使用する場合は、それをコンピューターに接続します。
6. 画面上の指示に従います。操作性は、オペレーティングシステムとブラウザによって異なります。
7. デバイスにわかりやすい名前を付けるには AWS ビルダー ID、名前の変更を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで、MFA デバイスを で使用する準備ができました AWS ビルダー ID。

## AWS ビルダー ID MFA デバイスの名前を変更する

MFA デバイスの名前を変更するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。ページに到達すると、名前の変更がグレイアウトされていることがわかります。
3. 変更する MFA デバイスを選択します。これにより、名前の変更を選択できます。そしたら、ダイアログボックスが表示されます。
4. 表示されるプロンプトで、MFA デバイス名に新しい名前を入力し、名前の変更を選択します。名前を変更したデバイスは、多要素認証 (MFA) デバイスに表示されます。

## MFA デバイスの削除

2 つ以上の MFA デバイスをアクティブに保つことを推奨します。デバイスを削除する前に、「[AWS ビルダー ID MFA デバイスを登録する](#)」を参照して交換用の MFA デバイスを登録してください。の多要素認証を無効にするには AWS ビルダー ID、プロファイルから登録されたすべての MFA デバイスを削除します。

MFA デバイスを削除するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. 変更する MFA デバイスを選択したら、削除を選択します。
4. MFA デバイスを削除しますか? モーダルでは、指示に従ってデバイスを削除してください。
5. 削除をクリックします。

削除したデバイスは、[Multi-factor authentication (MFA) devices] (多要素認証 (MFA) デバイス) に表示されなくなります。

## のプライバシーとデータ AWS ビルダー ID

「[AWS プライバシー通知](#)」には、私たちがお客様の個人データをどのように扱うかが概説されています。AWS ビルダー ID プロファイルを削除する方法については、「」を参照してください [を削除する AWS ビルダー ID](#)。

## AWS ビルダー ID データをリクエストする

およびでアクセスした AWS アプリケーション AWS ビルダー ID とサービスに関連する個人情報は、リクエストして表示できます AWS ビルダー ID。他の AWS ウェブサイト、アプリケーション、製品、サービス、イベント、エクスペリエンスに関連して提供される個人情報など、データサブジェクトの権利を行使する方法の詳細については、「」を参照してください<https://aws.amazon.com/privacy>。

個人データをリクエストするには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします<https://profile.aws.amazon.com>。
2. AWS ビルダー ID データを選択します。
3. マイ AWS ビルダー ID データページの「の削除 AWS ビルダー ID」で、「データのリクエスト」を選択します。
4. リクエストが受領され 30 日以内に処理が完了されることを知らせる緑色の確認メッセージがページ上部に表示されます。
5. リクエストが処理されたことを通知するメールを受け取ったら、AWS ビルダー ID ビルダー ID プロフィールの [プライバシーとデータ] ページに戻ってください。新しく表示されたデータを含む ZIP アーカイブをダウンロードボタンを選択します。

データリクエストが保留中の際は、AWS ビルダー ID を削除することはできません。

## AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報

AWS ビルダー ID は、AWS アカウント またはサインイン認証情報とは別のものです。AWS ビルダー ID とのルートユーザー E メールに同じ E メールを使用できます AWS アカウント。

AWS ビルダー ID:

- が使用するツールやサービスにアクセスできます AWS ビルダー ID。
- AWS アカウント またはアプリケーションで指定したポリシーや設定など、既存のセキュリティコントロールには影響しません。
- 既存のルート、IAM アイデンティティセンター、IAM ユーザー、認証情報、またはアカウントを置き換えません。
- AWS マネジメントコンソール、AWS SDKs AWS CLI、または AWS Toolkit AWS にアクセスするための IAM 認証情報を取得できません。

AWS アカウント は、連絡先情報と支払い情報を含むリソースコンテナです。S3, EC2, Lambda などの課金および計測された AWS サービスを運用するセキュリティ境界を確立します。アカウント所有者は、AWS アカウント でサインインできます AWS マネジメントコンソール。詳細については、「[AWS マネジメントコンソールへのサインイン](#)」を参照してください。

## が既存の IAM Identity Center ID とどのように AWS ビルダー ID 関連しているか

アイデンティティを所有する個人は、AWS ビルダー ID を管理する。学校や職場など、他の組織で持っている他のアイデンティティとは関連がありません。IAM アイデンティティセンターのワークフォース ID を使用して作業自身を表し、AWS ビルダー ID を使用してプライベート自身を表すことができます。これらの ID は独立して動作します。

IAM アイデンティティセンター (AWS シングルサインオンの後継) AWS のユーザーは、企業の IT 管理者またはクラウド管理者、または Okta、Ping、Azure などの組織の ID プロバイダーの管理者によって管理されます。IAM アイデンティティセンターのユーザーは、AWS Organizations の複数のアカウントのリソースにアクセスできます。

## 複数の AWS ビルダー ID プロファイル

各 ID が一意の E メールアドレスを使用している AWS ビルダー ID 限り、複数の を作成できます。ただし、複数の を使用すると、どの目的でどの を使用した AWS ビルダー ID かを思い出すことが難しくなる AWS ビルダー ID 可能性があります。可能であれば、AWS ツールやサービスのすべての アクティビティに 1 AWS ビルダー ID つの を使用することをお勧めします。

# からサインアウトする AWS

からサインアウトする方法 AWS アカウント は、ユーザーの種類によって異なります AWS 。アカウントのルートユーザー、IAM ユーザー、IAM Identity Center のユーザー、フェデレーテッド ID、または AWS Builder ID ユーザーを指定できます。自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

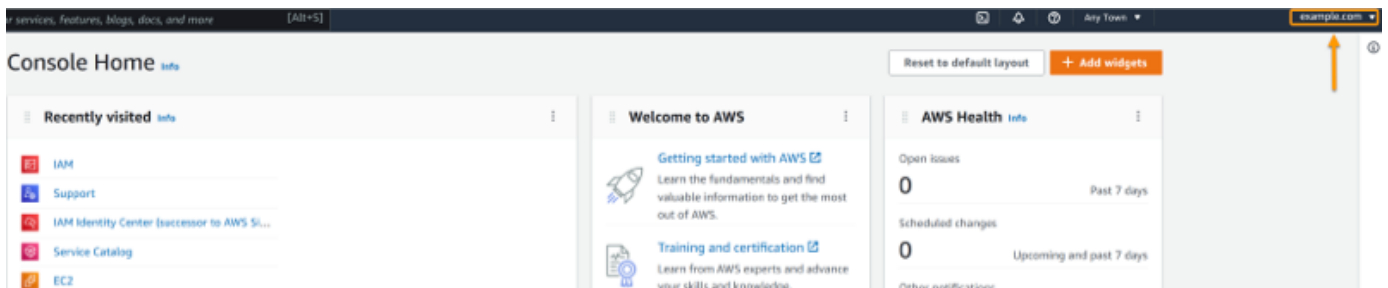
## トピック

- [からサインアウトする AWS マネジメントコンソール](#)
- [AWS アクセスポータルからサインアウトする](#)
- [AWS Builder ID からサインアウトする](#)

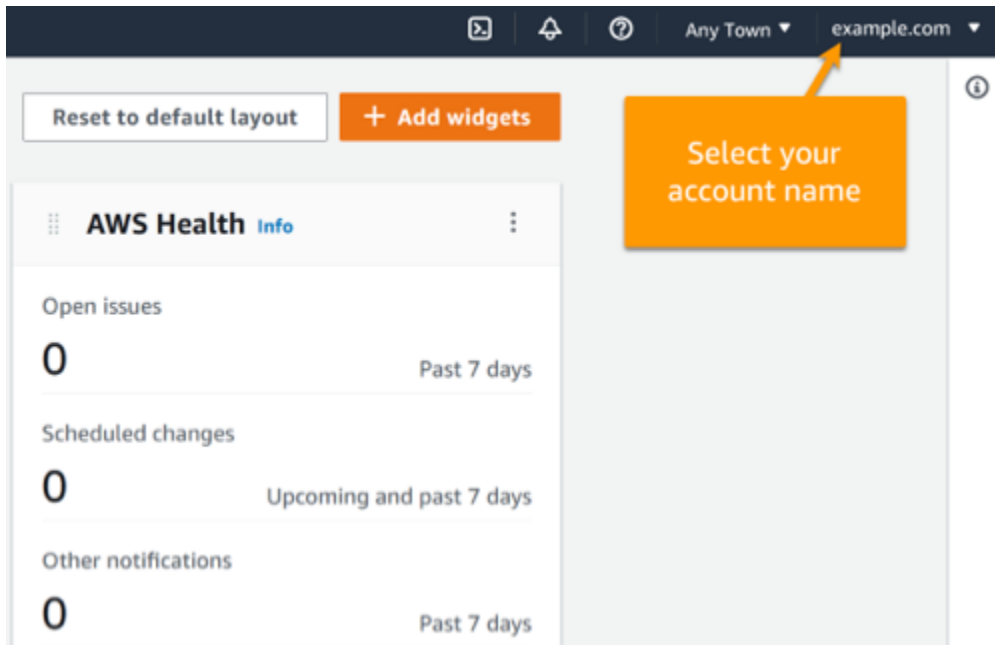
## からサインアウトする AWS マネジメントコンソール

からサインアウトするには AWS マネジメントコンソール

1. にサインインすると AWS マネジメントコンソール、次の図に示すようなページが表示されます。右上隅にアカウント名または IAM ユーザー名が表示されます。



2. 右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択します。



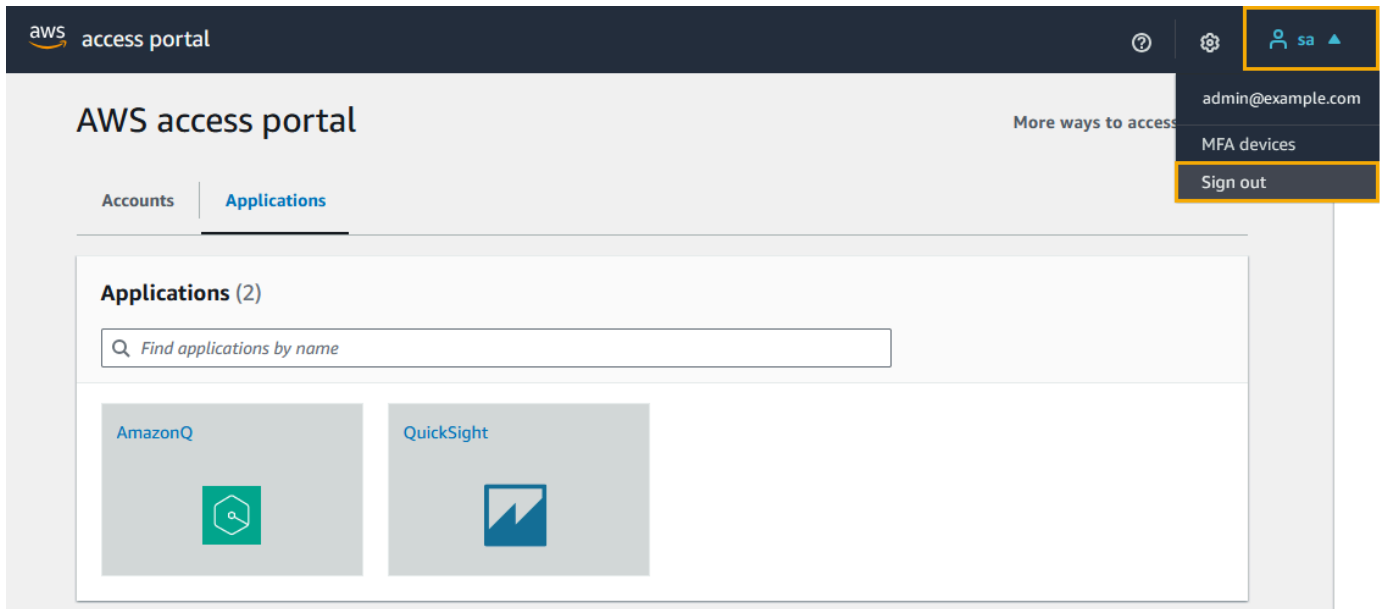
3. [サインアウト] オプションを選択します。ボタンオプションは、サインインしているアカウントの数によって異なります。
  - 1つのアカウントにのみサインインしている場合は、[サインアウト] を選択します。
  - [すべてのセッションからサインアウト] を選択して、すべての ID から同時にサインアウトします。
  - [現在のセッションからサインアウト] を選択して、選択した ID からサインアウトします。
4. AWS マネジメントコンソール ウェブページに戻ります。

複数のアカウントにサインインする方法の詳細については、「AWS マネジメントコンソール 入門ガイド」の「[複数のアカウントにサインインする](#)」を参照してください。

## AWS アクセスポータルからサインアウトする

AWS アクセスポータルからサインアウトするには

1. 右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択します。
2. 次の図に示すように、[サインアウト] を選択します。



3. 正常にサインアウトすると、AWS アクセスポータルのサインインページが表示されます。

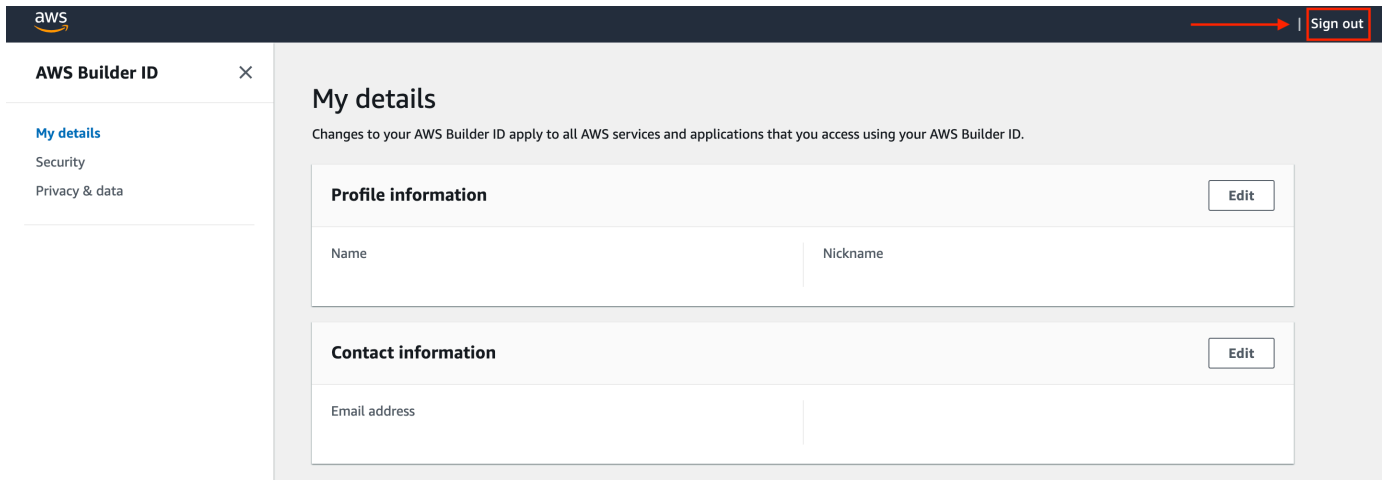
ID ソースとして外部 ID プロバイダー (IdP) を使用する場合、サインアウトしても認証情報のアクティブなセッションは終了しません。AWS アクセスポータルに戻ると、認証情報を指定せずに自動的にサインインする場合があります。

## AWS Builder ID からサインアウトする

AWS Builder ID を使用してアクセスした AWS サービスからサインアウトするには、サービスからサインアウトする必要があります。AWS Builder ID プロファイルからサインアウトする場合は、次の手順を参照してください。

AWS Builder ID プロファイルからサインアウトするには

1. で AWS Builder ID プロファイルにサインインすると <https://profile.aws.amazon.com/>、詳細が表示されます。
2. AWS Builder ID プロファイルページの右上で、サインアウトを選択します。



The screenshot displays the AWS Builder ID 'My details' page. At the top left is the AWS logo. In the top right corner, there is a 'Sign out' button with a red arrow pointing to it. On the left side, there is a navigation menu with 'AWS Builder ID' and a close button (X), and sub-links for 'My details', 'Security', and 'Privacy & data'. The main content area is titled 'My details' and includes a subtitle: 'Changes to your AWS Builder ID apply to all AWS services and applications that you access using your AWS Builder ID.' Below this, there are two sections: 'Profile information' and 'Contact information'. Each section has an 'Edit' button. The 'Profile information' section contains input fields for 'Name' and 'Nickname'. The 'Contact information' section contains an input field for 'Email address'.

3. Builder ID AWS プロファイルが表示されなくなったらサインアウトします。

# サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング

サインインやその他の AWS アカウント 問題のトラブルシューティングには、こちらの情報を参考にしてください。にサインインするstep-by-stepについては AWS アカウント、「」を参照してくださいに[サインインする AWS マネジメントコンソール](#)。

サインインの問題に対処するのに役立つトラブルシューティングトピックがない場合は、このフォームに入力 サポートして でケースを作成できます。[私は AWS のお客様であり、請求またはアカウントサポートを探しています](#)。セキュリティのベストプラクティスとして、サポート はサインインしているアカウント AWS アカウント 以外の の詳細を説明できません。また、AWS サポートは、理由の如何を問わず、アカウントに関連付けられている認証情報を変更することもできません。

## Note

サポート は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を発行しません。

サインイン問題のトラブルシューティングの詳細については、「[へのサインインまたはへのアクセスに問題がある場合はどうすればよいですか？](#)」を参照してください AWS アカウント。Amazon.com へのサインインに問題がある場合は、「[Amazon カスタマーサービス](#)」を参照してください。

## トピック

- [AWS マネジメントコンソール 認証情報が機能しない](#)
- [ルートユーザーのパスワードリセットが必要](#)
- [の E メールにアクセスできない AWS アカウント](#)
- [MFA デバイスの紛失および故障時の対応](#)
- [AWS マネジメントコンソール サインインページにアクセスできない](#)
- [AWS アカウント ID またはエイリアスを見つける方法](#)
- [アカウント検証コードが必要](#)
- [のルートユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)
- [の IAM ユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)
- [のフェデレーション ID パスワードを忘れた AWS アカウント](#)

- [既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しいを作成できない](#)
- [中断した を再アクティブ化する必要があります AWS アカウント](#)
- [サインインの問題 サポート については、 に連絡する必要があります](#)
- [請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります](#)
- [小売注文について質問があります](#)
- [の管理にヘルプが必要です AWS アカウント](#)
- [AWS アクセスポータル認証情報が機能しない](#)
- [の IAM Identity Center パスワードを忘れました AWS アカウント](#)
- [IAM Identity Center コンソールにサインインしようとする、「It's not you, it's us」というエラーが表示される](#)

## AWS マネジメントコンソール 認証情報が機能しない

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。別のページでログインしてみてください。

### ルートユーザーのサインインページ

- を作成または所有 AWS アカウント していて、ルートユーザーの認証情報を必要とするタスクを実行している場合は、 にアカウントの E メールアドレスを入力します [AWS マネジメントコンソール](#)。ルートユーザーにアクセスする方法については、[ルートユーザーとしてサインインする](#)を参照します。パスワードを忘れた場合、リセットすることはできません。詳細については「[のルートユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)」を参照してください。ルートユーザーのメールアドレスを忘れてしまった場合は、AWSからのメールが届いていないか確認してください。
- ルートユーザーアカウントにサインインしようとして、「ルートユーザーアカウントのパスワード復旧が無効になっています」というエラーが表示された場合は、ルートユーザーの認証情報はありません。ルートユーザーとしてサインインしたり、アカウントのルートユーザーのパスワード復旧を実行したりすることはできません。 を使用して管理される AWS メンバーアカウントには、ルートユーザーのパスワード、アクセスキー、署名証明書、またはアクティブな多要素認証 (MFA) がない AWS Organizations 場合があります。

管理アカウントまたは IAM の委任された管理者のみが、メンバーアカウントでルートユーザーアクションを実行できます。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクを実行する必要がある場合

は、管理者に問い合わせてください。詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[メンバーアカウントのルートアクセスを一元管理する](#)」を参照してください。

## IAM ユーザーのサインインページ

- 自分または他のユーザーが 内に IAM ユーザーを作成した場合は AWS アカウント、その AWS アカウント ID またはエイリアスを知ってサインインする必要があります。[AWS マネジメントコンソール](#) にアカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを入力します。IAM ユーザーのサインインページにアクセスする方法については、「[IAM ユーザーとしてサインインするには](#)」を参照してください。IAM ユーザーパスワードを忘れた場合は、IAM ユーザーパスワードのリセットについて、「[の IAM ユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント](#)」を参照してください。アカウント番号を忘れた場合は、メール、ブラウザーのお気に入り、またはブラウザーの履歴で、`signin.aws.amazon.com/` を含む URL を検索してください。アカウント ID またはエイリアスは、URL の "account=" テキストの後に続きます。アカウント ID またはエイリアスが見つからない場合は、administrator にお問い合わせください。この情報 サポート を復旧することはできません。アカウントIDまたはエイリアスは、サインインするまで表示されません。

## ルートユーザーのパスワードリセットが必要

アカウントを保護するために、AWS マネジメントコンソールにサインインしようとする、次のメッセージが表示されることがあります。

パスワードのリセットが必要です。セキュリティの目的でパスワードをリセットする必要があります。アカウントを安全に保つために、以下の [パスワードを忘れた場合] を選択してパスワードをリセットする必要があります。

このメッセージに加えて、は、お客様のアカウントに関連付けられた E メールを通じて潜在的な問題が特定されたときに AWS も通知します。この E メールには、パスワードのリセットが必要な理由が含まれています。たとえば、AWS アカウント または に関連付けられた認証情報への異常なログインアクティビティを特定すると AWS アカウント、オンラインで公開されます。

ルートユーザーの認証情報が安全であることを保証するためにパスワードを更新します。ルートユーザーのパスワードをリセットする方法については、「[AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった](#)」を参照してください。

## の E メールにアクセスできない AWS アカウント

を作成するときは AWS アカウント、E メールアドレスとパスワードを指定します。これらは、AWS アカウントのルートユーザーの認証情報です。に関連付けられている E メールアドレスが不明な場合は AWS アカウント、@signin.aws または @verify.signin.aws で終わる、を開くために使用された可能性のある組織の E メールアドレスに保存された通信を探します AWS アカウント。チーム、組織、家族の他のメンバーに聞いてみてください。知り合いがアカウントを作成した場合は、その人がアクセスできるように手伝ってください。

E メールアドレスがわかっても、E メールにアクセスできなくなった場合は、まず次のいずれかのオプションを使用して、E メールへのアクセスを回復します。

- E メールアドレスのドメインを所有している場合は、削除した E メールアドレスを復元できます。または、E メールアカウントにキャッチオールを設定することもできます。「キャッチオール」は、メールサーバーに存在しなくなった E メールアドレスに送信されたすべてのメッセージをキャッチし、別のメールアドレスにリダイレクトします。
- アカウントの E メールアドレスが企業 E メールシステムの一部である場合は、IT システム管理者に連絡することをお勧めします。管理者は、E メールへのアクセス許可の回復を支援できる可能性があります。

にまだサインインできない場合は AWS アカウント、に連絡して代替のサポートオプションを見つけることができます [サポート](#)。

## MFA デバイスの紛失および故障時の対応

MFA デバイスが紛失、破損、または動作しない場合、MFA 検証リクエストを送信してもワンタイムパスコード (OTP) を受け取ることができません。

### IAM ユーザー

同じ IAM ユーザーに登録されている別の MFA デバイスを使用してサインインできます。

IAM ユーザーは、機能していない MFA デバイスを無効にするために管理者に連絡する必要があります。これらのユーザーは、管理者の支援なしに MFA デバイスを復元することはできません。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

## ルートユーザー

ルートユーザーへのアクセスを回復するには、同じルートユーザーに登録されている別の MFA デバイスを使用してサインインする必要があります。それから、次のオプションを確認して MFA デバイスを復旧または更新します。

- MFA デバイスの復旧手順については、[「MFA デバイスの紛失および故障時の対応」](#)をご覧ください。
- MFA デバイスの電話番号を更新する手順については、[「電話番号を更新して紛失した MFA デバイスをリセットする方法」](#)をご覧ください。
- MFA デバイスをアクティブ化する step-by-step については、「[で MFA デバイスを有効にする AWS](#)」を参照してください。
- MFA デバイスを復旧できない場合は、[サポート](#) にお問い合わせください。

### Note

IAM ユーザーは、管理者に連絡して MFA デバイスに関するサポートを依頼する必要があります。サポートは、MFA デバイスの問題で IAM ユーザーをサポートできません。

## AWS マネジメントコンソール サインインページにアクセスできない

サインインページが表示されない場合は、ドメインがファイアウォールによってブロックされている可能性があります。ネットワーク管理者に連絡して、ユーザーの種類とサインイン方法に応じて、以下のドメインまたは URL エンドポイントを Web コンテンツフィルターソリューションの許可リストに追加してください。

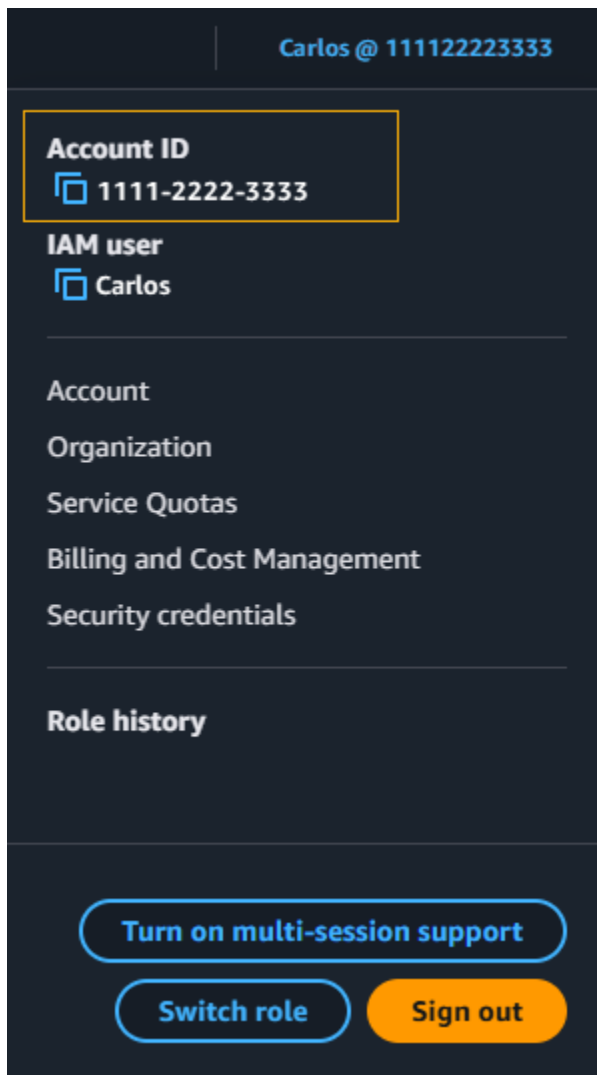
ルートユーザーと IAM ユーザー	*.signin.aws.amazon.com
Amazon.com アカウントへのサインイン	www.amazon.com
IAM アイデンティティセンターのユーザーとファーストパーティアプリケーションサインイン	<ul style="list-style-type: none"><li>• *.awsapps.com (http://awsapps.com/)</li><li>• *.signin.aws</li></ul>

## AWS アカウント ID またはエイリアスを見つける方法

IAM ユーザーでサインインしていない場合は、管理者に AWS アカウント の ID またはエイリアスを問い合わせてください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

にアクセスできる IAM ユーザーの場合 AWS マネジメントコンソール、アカウント ID はサインイン URL にあります。管理者からのメールをチェックして、サインイン URL を確認してください。アカウント ID はサインイン URL の最初の 12 桁です。たとえば、次の URL の `https://111122223333.signin.aws.amazon.com/console` では、AWS アカウント ID は 111122223333 です。

にサインインすると AWS マネジメントコンソール、リージョンの横にあるナビゲーションバーにアカウント情報が表示されます。たとえば、次のスクリーンショットでは、IAM ユーザー Carlos AWS アカウント のは 1111-2222-3333 です。



AWS アカウント ID とエイリアスとその検索方法の詳細については、[AWS アカウント「IDとそのエイリアス」](#)を参照してください。

## アカウント検証コードが必要

アカウントの E メールアドレスとパスワードを指定した場合、では 1 回限りの検証コードの提供が必要になる AWS ことがあります。検証コードを取得するには、に関連付けられている E メールをチェックして、Amazon Web Services からの AWS アカウント メッセージを確認します。E メールアドレスは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わります。メッセージに記載されている手順に従います。アカウントにメッセージが表示されない場合、スパムや迷惑メールフォルダを確認してください。E メールへのアクセス許可がない場合、「[の E メールにアクセスできない AWS アカウント](#)」を参照してください。

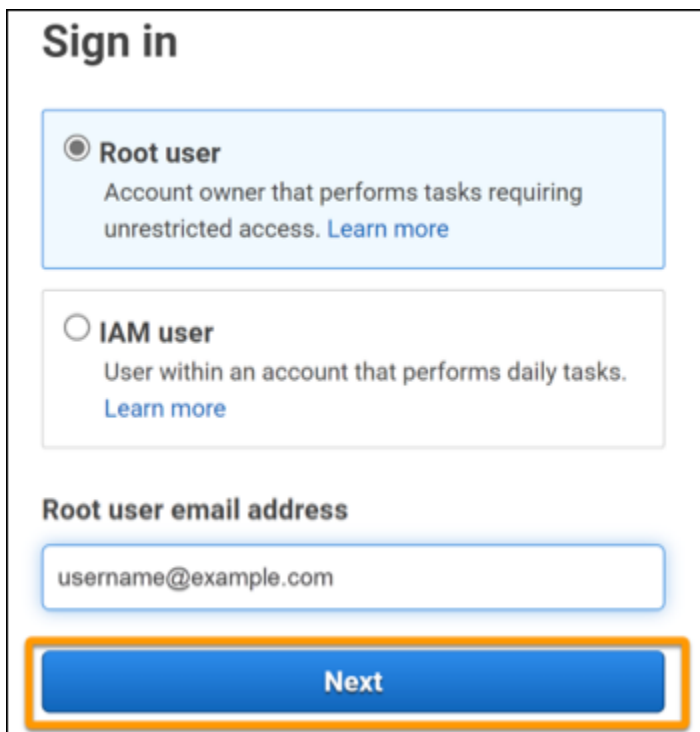
## のルートユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント

ルートユーザーで、のパスワードを紛失または忘れた場合は AWS アカウント、で「パスワードを忘れた場合」リンクを選択してパスワードをリセットできます AWS マネジメントコンソール。AWS アカウントの E メールアドレスを把握し、E メールアカウントにアクセスできる必要があります。パスワード復旧手順中に、パスワードをリセットするためのリンクがメールで送信されます。リンクは、の作成に使用した E メールアドレスに送信されます AWS アカウント。

AWS Organizations を使用して作成したアカウントのパスワードをリセットするには、[「ルートユーザーとしてのメンバーアカウントへのアクセス」](#)を参照してください。

ルートユーザーパスワードをリセットするには

1. AWS E メールアドレスを使用して、ルートユーザーとして [AWS マネジメントコンソール](#) へのサインインを開始します。その後、[Next] を選択します。



The screenshot shows the AWS 'Sign in' page. At the top, it says 'Sign in'. There are two radio button options: 'Root user' (selected) and 'IAM user'. Below the options is a text input field for 'Root user email address' containing 'username@example.com'. At the bottom, there is a blue 'Next' button highlighted with an orange border.

### **i** Note

IAM ユーザー認証情報で [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインしている場合、ルートユーザーのパスワードをリセットする前にサインアウトする必要があります。アカウント固有の IAM ユーザーのサインインページが表示された場合は、ページの下部付近にある [ルートアカウントの認証情報を使用してサインインする](#) を選択します。必

要に応じて、アカウントの E メールアドレスを指定し、[次へ] を選択して [ルートuser sign in (ルートユーザーサインイン)] ページにアクセスします。

2. [パスワードを忘れましたか?] を選択します。



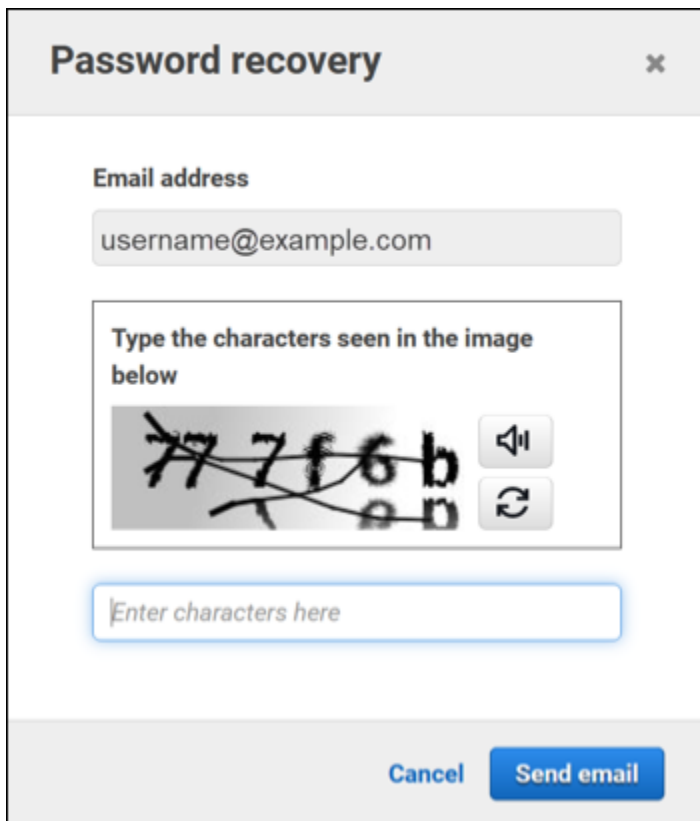
Root user sign in ⓘ

Email: username@example.com

Password [Forgot password?](#)

Sign in

3. パスワード復旧手順を完了します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞か、セキュリティチェックを更新して新しい文字セットが試してください。パスワード復旧ページの例を次の画像に示します。



Password recovery ×

Email address

username@example.com

Type the characters seen in the image below

777f6b

Enter characters here

Cancel Send email

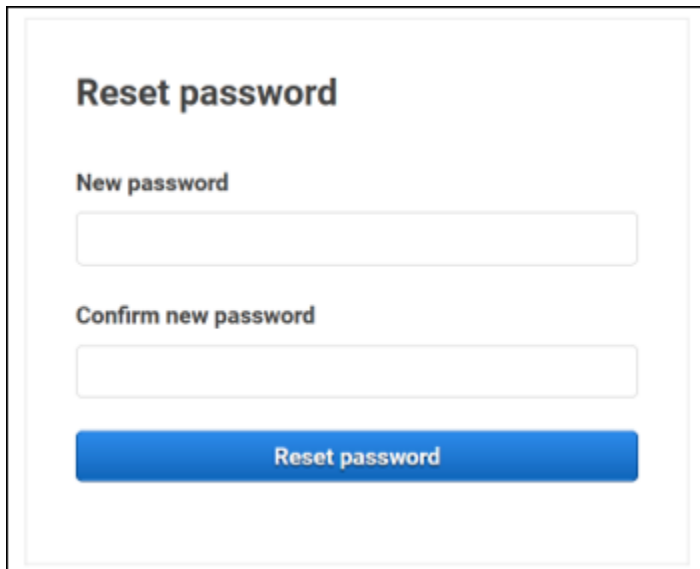
- パスワード復旧手順を完了すると、AWS アカウントに関連する E メールアドレスに詳細な手順が送信されたというメッセージを受け取ります。

AWS アカウントの作成に使用した E メールに、パスワードをリセットするためのリンクが送信されます。

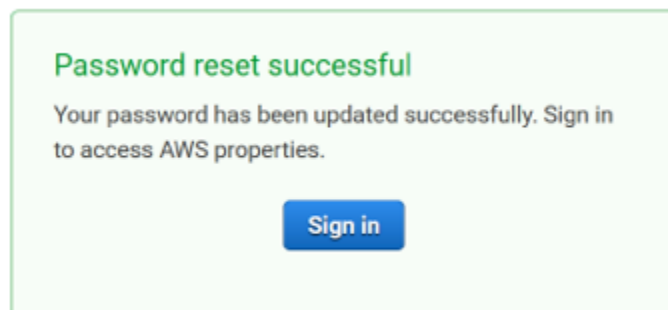
**Note**

E メールは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わるアドレスから届きます。

- E AWS メールに記載されているリンクを選択して、AWS ルートユーザーのパスワードをリセットします。
- リンクをクリックすると、新しいルートユーザーパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。



パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが届きます。パスワードのリセットが成功したことが次の画像に示します。



ルートユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを復元するにはどうすればよいですか？」](#)を参照してください。

## の IAM ユーザーパスワードを忘れました AWS アカウント

IAM ユーザーのパスワードを変更するには、適切な権限が必要です。IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「IAM ユーザーが自分のパスワードを変更する方法」](#)を参照してください。

パスワードをリセットする権限がない場合は、IAM 管理者だけが IAM ユーザーパスワードをリセットできます。IAM ユーザーは IAM 管理者に連絡して、パスワードをリセットする必要があります。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

**Sign in as IAM user**

Account ID (12 digits) or account alias

111122223333

IAM user name

Password

Remember this account

**Sign in**

[Sign in using root user email](#)

**Forgot password?**

Account owners, return to the main sign-in page and sign in using your email address. IAM users, only your administrator can reset your password. For help, contact the administrator that provided you with your user name. [Learn more](#)

セキュリティ上の理由から、サポートには認証情報を表示、提供、または変更するためのアクセス権はありません。

IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを復元するにはどうすればよいですか？」](#)を参照してください。

管理者がパスワードを管理する方法については、[「IAM ユーザーのパスワード管理」](#)を参照してください。

## のフェデレーション ID パスワードを忘れた AWS アカウント

フェデレーテッド ID は、外部 ID AWS アカウント を使用して にアクセスするためにサインインします。使用する外部 ID のタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。管理者はフェデレーション ID を作成します。パスワードをリセットする方法の詳細については、管理者に確認してください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

## 既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しい を作成できない

1 つの E メールアドレスには 1 つの AWS アカウントのルートユーザーにのみ関連付けることができます。ルートユーザーアカウントを閉鎖し、90 日以上閉鎖されたままの場合、アカウントを再開したり、このアカウントに関連付けられた E メールアドレス AWS アカウント を使用して新しい を作成したりすることはできません。

この問題を解決するには、新しいアカウントにサインアップするときに、通常の E メールアドレスの後にプラス記号 (+) を追加するサブアドレスを使用します。プラス記号 (+) の後には、大文字または小文字、数字、または SMTP (簡易メール転送プロトコル) がサポートするその他の文字を付けることができます。たとえば、普段使っている E メールが email@yourcompany.com の場合、email+1@yourcompany.com または email+tag@yourcompany.com を使用できます。普段使っている E メールアドレスと同じ受信トレイに接続されていても、新しいアドレスと見なされます。新しいアカウントにサインアップする前に、追加した E メールアドレスにテストメールを送信して、メールプロバイダーがサブドレッシングをサポートしていることを確認することをお勧めします。

## 中断した を再アクティブ化する必要があります AWS アカウント

AWS アカウント が中断され、復元する場合は、[「中断した を再アクティブ化する方法を教えてください」](#)を参照してください AWS アカウント。

## サインインの問題 サポート については、 に連絡する必要があります

すべてを試した場合は、[請求およびアカウントサポートリクエスト](#)を完了 サポート することで、 からサポートを受けることができます。

## 請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります

にサインインできず AWS アカウント、AWS Billing 請求の問題について に連絡したい場合は、[請求およびアカウントサポートリクエスト](#)を通じて行うことができます。料金や支払い方法など AWS Billing and Cost Management、 の詳細については、「[Getting help with AWS Billing](#)」を参照してください。

## 小売注文について質問があります

www.amazon.com アカウントに問題がある場合、または小売注文について質問がある場合は、「[サポートオプションとお問い合わせ](#)」を参照してください。

## の管理にヘルプが必要です AWS アカウント

のクレジットカードの変更 AWS アカウント、不正行為の報告、または の閉鎖についてサポートが必要な場合は AWS アカウント、「[に関するその他の問題のトラブルシューティング AWS アカウント](#)」を参照してください。

## AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない

AWS アクセスポータルにサインインできない場合は、以前にアクセスした方法を思い出してください AWS。

## パスワードを使ったことをまったく覚えていない場合

AWS 認証情報を使用 AWS せずに以前に にアクセスしたことがあるかもしれません。これは、IAM アイデンティティセンター経由のエンタープライズシングルサインオンでは一般的です。AWS のようにアクセスすると、会社の認証情報を使用して、認証情報を入力せずに AWS アカウントまたはアプリケーションにアクセスすることになります。

- AWS アクセスポータル – 管理者が外部からの認証情報を使用して AWS アクセスすることを許可している場合は AWS、ポータルの URL が必要です。E メール、お気に入りのブラウザ、または `awsapps.com/start` や `signin.aws/platform/login` を含む URL に対するブラウザの履歴を確認してください。

例えば、カスタム URL には ID や `https://d-1234567890.awsapps.com/start` のようなドメインが含まれる場合があります。ポータルリンクが見つからない場合は、管理者にお問い合わせください。この情報の復旧 サポート はサポートされていません。

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。ウェブブラウザで URL を確認してください。 `https://signin.aws.amazon.com/` の場合、フェデレーテッドユーザーまたは IAM アイデンティティセンターのユーザーは自分の認証情報を使用してサインインできません。

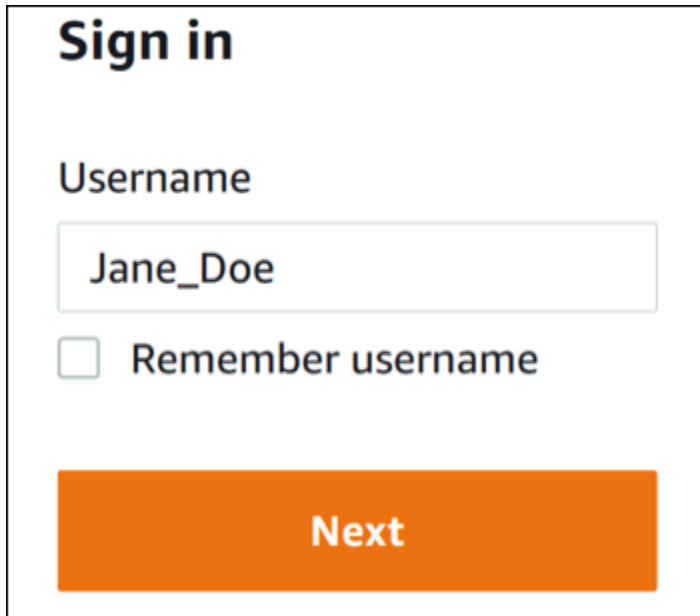
- AWS アクセスポータル – 管理者が AWS IAM アイデンティティセンター (AWS シングルサインオンの後継) の ID ソースをセットアップする場合は AWS、組織の AWS アクセスポータルでユーザー名とパスワードを使用してサインインする必要があります。ポータルの URL を見つけるには、E メール、安全なパスワードストレージ、ブラウザのお気に入り、またはブラウザの履歴で `awsapps.com/start` または `signin.aws/platform/login` を含む URL。例えば、カスタム URL に ID `https://d-1234567890.awsapps.com/start` やなどのドメインが含まれている場合があります。ポータルリンクが見つからない場合は、管理者にお問い合わせください。この情報の復旧には役 サポート に立ちません。

## の IAM Identity Center パスワードを忘れました AWS アカウント

IAM アイデンティティセンターのユーザーで、AWS アカウントのパスワードを紛失または忘れた場合は、パスワードをリセットできます。IAM アイデンティティセンターのアカウントに使用している E メールアドレスを知っており、アクセス権限を持っている必要があります。パスワードをリセットするためのリンクが AWS アカウント E メールに送信されます。

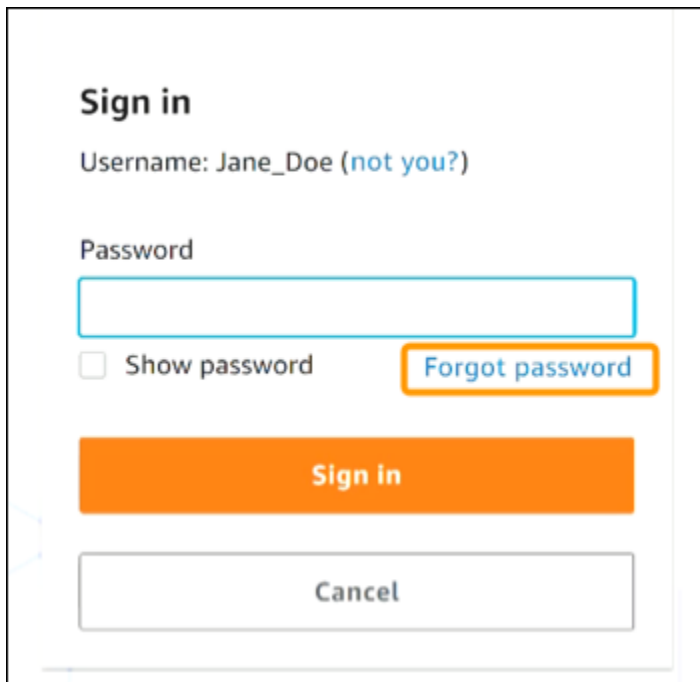
## IAM アイデンティティセンターでユーザーのパスワードをリセットする手順

1. AWS アクセスポータルの URL リンクを使用してユーザー名を入力します。その後、[Next] を選択します。



The screenshot shows the 'Sign in' page. The 'Username' field contains 'Jane\_Doe'. Below the field is a checkbox labeled 'Remember username' which is unchecked. At the bottom of the form is a large orange button labeled 'Next'.

2. 次の画像に示すように、[パスワードを忘れた場合] を選択します。



The screenshot shows the 'Sign in' page. The 'Username' field is filled with 'Jane\_Doe' and has '(not you?)' in blue text next to it. Below the username field is the 'Password' field, which is empty. To the left of the password field is a checkbox labeled 'Show password' which is unchecked. To the right of the password field is a link labeled 'Forgot password' which is highlighted with an orange box. Below the password field is a large orange button labeled 'Sign in' and a white button labeled 'Cancel'.

3. パスワード復旧手順を完了します。

**Forgot password**

Verify that you're a real person. Enter the characters from the image below.

Username: Jane\_Doe

25br2n

Next

Cancel

4. パスワード復旧手順を完了すると、パスワードのリセットに使用できる E メールメッセージが送信されたことを確認する以下のメッセージが表示されます。

**Reset password email sent**

Please check your inbox. If you did not receive a password reset email, confirm that your username is correct, or ask your administrator to check your registered email.

Continue

パスワードをリセットするためのリンクが記載された E メールが、IAM アイデンティティセンターのユーザーアカウントに関連付けられている E メールに送信されます。E AWS メールに記

載されているリンクを選択して、パスワードをリセットします。リンクをクリックすると、新しいパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。新しいパスワードを作成すると、パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが表示されます。

パスワードをリセットするためのメールが届かない場合は、管理者に IAM アイデンティティセンターでどの E メールがユーザーに登録されているかを確認するよう依頼してください。

## IAM Identity Center コンソールにサインインしようとするとき、「It's not you, it's us」というエラーが表示される

このエラーは、IAM Identity Center のインスタンスまたは ID ソースとして使用している外部 ID プロバイダー (IdP) のセットアップの問題があることを示します。次のことを確認することをお勧めします。

- サインインに使用するデバイスの日時設定を確認します。日付と時刻の自動設定を許可することをお勧めします。利用できない場合は、日付と時刻を既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに同期することをお勧めします。
- IAM Identity Center にアップロードされた IdP 証明書が ID プロバイダーから提供された証明書と同じであることを確認します。 [IAM Identity Center コンソール](#) から証明書を確認するには、[設定] に移動します。[アイデンティティソース] タブの [アクション] で [認証を管理] を選択します。新しい証明書をインポートする必要がある場合があります。
- IdP の SAML メタデータファイルで、NameID 形式が `urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress` であることを確認します。
- AD Connector を使用している場合は、サービスアカウントの認証情報が正しいこと、および有効期限が切れていないことを確認します。詳細については、「[で AD Connector サービスアカウントの認証情報を更新する Directory Service](#)」を参照してください。

# AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング

ここに記載する情報を使用すると、AWS ビルダー ID に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

## トピック

- [メールアドレスが既に使われています](#)
- [メールの確認を完了させることができない](#)
- [Google でサインインできない](#)
- [Apple でサインインできない](#)
- [GitHub でサインインできない](#)
- [Amazon でサインインできない](#)
- [Google で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました](#)
- [Apple で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました](#)
- [GitHub で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました](#)
- [Amazon で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました](#)
- [でサインインしようとする、 「It's not you, it's us」 というエラーが表示されます。 AWS ビルダー ID](#)
- [パスワードを忘れてしまいました](#)
- [新しいパスワードを設定できない](#)
- [パスワードが機能しません。](#)
- [パスワードが機能せず、 AWS ビルダー ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセスできなくなる](#)
- [MFA を有効にできない](#)
- [認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない](#)
- [MFA デバイスを削除できない](#)
- [認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、 「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます](#)

- [AWS Builder ID にサインインしようとする](#)と、「[It's not you, it's us](#)」というメッセージが表示されます。
- [サインアウトしても完全にサインアウトされない](#)
- [まだ問題を解決しようとしています](#)

## メールアドレスが既に使われています

入力した E メールが既に使用されており、それを自分の E メールとして認識している場合は、既に AWS Builder ID にサインアップしている可能性があります。そのメールアドレスを使用してサインインしてみてください。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

## メールの確認を完了させることができない

AWS Builder ID にサインアップしたが、検証 E メールを受信していない場合は、次のトラブルシューティングタスクを完了します。

1. スпамアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダを確認してください。

### Note

この検証 E メールは、[no-reply@signin.aws](mailto:no-reply@signin.aws) または [no-reply@login.awsapps.com](mailto:no-reply@login.awsapps.com) のアドレスから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

2. コードを再送信を選択し、受信トレイを更新して、スパムアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダをもう一度確認します。
3. それでも検証 E メールが表示されない場合は、AWS ビルダー ID の E メールアドレスにタイプミスがないかを再確認してください。間違ったメールアドレスを入力した場合は、自分のメールアドレスでもう一度サインアップしてください。

## Google でサインインできない

Google アカウントと同じ E メールアドレスを持つ既存の AWS ビルダー ID プロファイルがある場合は、AWS ビルダー ID パスワードを使用してアカウントにサインインします。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

Google パスワードでサインインする方法については、「[Google アカウントにサインインできない](#)」を参照してください。

## Apple でサインインできない

Apple アカウントと同じ E メールアドレスを持つ既存の AWS ビルダー ID プロファイルがある場合は、AWS ビルダー ID パスワードを使用してアカウントにサインインします。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

Apple パスワードでサインインする方法については、「[Apple アカウントにサインインできない場合](#)」を参照してください。

## GitHub でサインインできない

GitHub アカウントと同じ E メールアドレスを持つ既存の AWS ビルダー ID プロファイルがある場合は、AWS ビルダー ID パスワードを使用してアカウントにサインインします。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

GitHub パスワードでサインインする方法については、「[サインインできない - GitHub サポート](#)」を参照してください。

## Amazon でサインインできない

Amazon アカウントと同じ E メールアドレスを持つ既存の AWS ビルダー ID プロファイルがある場合は、AWS ビルダー ID パスワードを使用してアカウントにサインインします。パスワードを覚えていない場合、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」を参照してください。

Amazon パスワードでサインインする方法については、「[サインインのヘルプ](#)」を参照してください。

## Google で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました

つまり、Google アカウントと同じ E メールアドレス AWS ビルダー ID を使用する既存の [アカウント](#)があるか、Google アカウントに関連付けられた E メールアドレスが検証されていないことを意味します。いずれの場合も、E メールアドレスを入力し、パスワードを指定して再度サインアップをお試しください。

## Apple で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました

つまり、Apple アカウントと同じ E メールアドレス AWS ビルダー ID を使用する既存の [アカウント](#)があるか、Apple アカウントに関連付けられた E メールアドレスが Apple [Business Manager](#) で会社によって検証または管理されていないか、Apple [School Manager](#) で学校によって管理されていないことを意味します。いずれの場合も、E メールアドレスを入力し、パスワードを指定して再度サインアップをお試しください。

## GitHub で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました

つまり、既存の [アカウント](#)が GitHub アカウントと同じ E メールアドレス AWS ビルダー ID を使用しているか、GitHub アカウントに関連付けられた E メールアドレスが検証されていないことを意味します。いずれの場合も、E メールアドレスを入力し、パスワードを指定して再度サインアップをお試しください。

## Amazon で続行 AWS ビルダー ID を使用して にサインアップしようとしたときにサインインエラーが表示されました

つまり、Amazon アカウントと同じ E メールアドレス AWS ビルダー ID を使用する既存の [アカウント](#)があるか、Amazon アカウントに関連付けられた E メールアドレスが検証されていないことを意味します。いずれの場合も、E メールアドレスを入力し、パスワードを指定して再度サインアップをお試しください。

## でサインインしようとするとき、「It's not you, it's us」というエラーが表示されます。AWS ビルダー ID

サインインしようとしたときにこのエラーメッセージが表示された場合は、ローカル設定または E メールアドレスに問題がある可能性があります。

- サインインに使用するデバイスの日時設定を確認します。日付と時刻の自動設定を許可することをお勧めします。利用できない場合は、日付と時刻を既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに同期することをお勧めします。
- E メールアドレスのフォーマットエラーを確認します。次の問題は、AWS ビルダー ID でサインインしようとするときエラーを返します。
  - E メールアドレスに含まれるスペース
  - E メールアドレスに含まれるスラッシュ (/)
  - E メールアドレスに含まれる 2 つのピリオド (.)
  - E メールアドレスに含まれる 2 つのアンパサンド (@)
  - E メールアドレスの末尾にあるカンマ (,)
  - E メールアドレスの末尾にあるブラケット (])

## パスワードを忘れてしまいました

忘れたパスワードをリセットするには

1. AWS ビルダー ID でサインイン ページで、E メールアドレスに AWS ビルダー ID の作成に使用した E メールを入力します。[次へ] を選択します。
2. パスワードを忘れましたか? を選択します。パスワードをリセットできる AWS Builder ID に関連付けられた E メールアドレスへのリンクが送信されます。
3. メールの指示に従います。

## 新しいパスワードを設定できない

セキュリティ上の理由から、パスワードを設定または変更するときは必ず次の要件に従う必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。

- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a～z
  - 大文字 A～Z
  - 数字 0～9
  - 英数字以外の文字 ~!@#\$%^管理ポータル\*\_+=`|\}{:;'"<>,.?/
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

## パスワードが機能しません。

パスワードを覚えていても、AWS Builder ID でサインインするときにパスワードが機能しない場合は、以下を確認してください。

- キャップロックはオフです。
- 古いパスワードは使用していません。
- AWS ビルダー ID パスワードを使用しており、にパスワードを使用していません AWS アカウント。

パスワードが最新で、正しく入力されていることを確認しても機能しない場合は、[パスワードを忘れてしまいました](#) の指示に従ってパスワードをリセットしてください。

## パスワードが機能せず、AWS ビルダー ID の E メールアドレスに送信された E メールにアクセスできなくなる

それでも AWS Builder ID にサインインできる場合は、プロフィールページを使用して AWS Builder ID の E メールを新しい E メールアドレスに更新します。Eメールの検証が完了すると、にサインイン AWS し、新しい E メールアドレスで通信を受信できます。

職場や大学のメールアドレスを使用していて、その後会社や学校を辞め、そのアドレスに送信されたメールを受信できない場合や、ビルダー ID にサインインできない場合は、そのメールシステムの管理者に連絡してください。メールを新しいアドレスに転送したり、一時的なアクセスを許可したり、メールボックスのコンテンツを共有したりできる場合があります。

## MFA を有効にできない

MFA を有効にするには、[AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#) の手順に従って 1 つ以上の MFA デバイスをプロファイルに追加します。

## 認証アプリケーションを MFA デバイスとして追加できない

別の MFA デバイスを追加できない場合は、そのアプリケーションに登録できる MFA デバイスの上限に達している可能性があります。未使用の MFA デバイスを削除するか、別の認証アプリケーションを使用してみてください。

## MFA デバイスを削除できない

MFA を無効にする場合は、[MFA デバイスの削除](#) の手順に従って MFA デバイスを削除してください。ただし、MFA を有効にしておきたい場合は、既存の MFA デバイスを削除する前に、別の MFA デバイスを追加する必要があります。別の MFA デバイスの追加の詳細については、「[AWS ビルダー ID 多要素認証 \(MFA\) の管理](#)」を参照してください。

## 認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする と、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示 されます

Builder ID AWS がコードベースの認証アプリと組み合わせて使用するものなど、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) システムは、クライアントとサーバー間の時間同期に依存します。認証アプリケーションをインストールしているデバイスが信頼できるタイムソースに正しく同期されていることを確認するか、またはデバイスの時間を、「[NIST](#)」やその他のローカル/地域など、信頼できるソースと一致するように手動で設定してください。

## AWS Builder ID にサインインしようとする と、「It's not you, it's us」というメッセージが表示 されます。

サインインに使用するデバイスの日付と時刻の設定を確認してください。日付と時刻は自動設定にすることをお勧めします。利用できない場合は、日付と時刻を既知の Network Time Protocol (NTP) サーバーに同期することをお勧めします。

## サインアウトしても完全にサインアウトされない

システムはすぐにサインアウトするように設計されていますが、完全にサインアウトするには最大で 1 時間かかる場合があります。

### Note

Google や Apple などのソーシャルログインアカウントを使用する場合、アクティブな AWS ビルダー ID セッションを削除しても、ソーシャルログインアカウントからログアウトされることはありません。

## まだ問題を解決しようとしています

[サポートフィードバックフォーム](#)に記入できます。リクエスト情報セクションの「How can we help, include that you're using AWS Builder ID」を参照してください。問題に最大限効率的に対処できるように、できるだけ詳しく説明してください。

# AWS の 管理ポリシー AWS サインイン

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。AWS 管理ポリシーは、ユーザー、グループ、ロールにアクセス許可の割り当てを開始できるように、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を提供するように設計されています。

AWS 管理ポリシーは、すべての AWS お客様が使用できるため、特定のユースケースに対して最小特権のアクセス許可を付与しない場合があります。ユースケースに固有の [カスタマー管理ポリシー](#) を定義して、アクセス許可を絞り込むことをお勧めします。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可は変更できません。が AWS 管理ポリシーで定義されたアクセス許可 AWS を更新すると、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパル ID (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。AWS は、新しい が起動されるか、新しい API オペレーション AWS のサービス が既存のサービスで使用できるようになったときに、AWS 管理ポリシーを更新する可能性が最も高くなります。

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。

## AWS マネージドポリシー: AmazonManagedSignUpServicePolicy

このAmazonManagedSignUpServicePolicyポリシーは、AWS アカウントのサインアッププロセスを完了するために必要なアクセス許可を付与します。

ユーザー、グループおよびロールに AmazonManagedSignUpServicePolicy をアタッチできます。

### アクセス許可の詳細

このポリシーには、以下のアクセス許可が含まれています。

- 顧客検証 - 検証ドキュメントのアップロード URL の作成など、顧客検証の詳細と適格性ステータスの作成、取得、更新を許可します。

JSON ポリシードキュメントの最新バージョンなど、ポリシーについてさらに詳しく確認するには、「AWS マネージドポリシーリファレンスガイド」の「[AmazonManagedSignUpServicePolicy](#)」を参照してください。

## AWS マネージドポリシー: ApplicationProvisioningPolicy

ApplicationProvisioningPolicy ポリシーは、アプリケーションのプロビジョニングおよび ID 管理オペレーションに関する包括的な権限を付与します。これには、IAM ロールとポリシーの管理、SSO 設定、ID ストアオペレーションなどが含まれます。

ユーザー、グループおよびロールに ApplicationProvisioningPolicy をアタッチできます。

### アクセス許可の詳細

このポリシーには、以下のアクセス許可が含まれています。

- IAM 管理 - ロールとポリシーの作成、更新、削除、ロールアタッチメントの管理、サービスにリンクされたロールの作成など、包括的な IAM オペレーションを許可します。
- Research and Engineering Studio on AWS - Research and Engineering Studio on AWS リソースに対するすべてのオペレーションを許可します。
- ロールの受け渡し - IAM ロールを他のサービスに渡すことを許可します。
- IAM アイデンティティセンター - IAM アイデンティティセンターのインスタンス、アプリケーション、割り当て、許可、認証方法の管理を許可します。
- ID ストア - ID ストアからのユーザーおよびグループの情報の読み取りを許可します。
- IAM アイデンティティセンター OAuth - IAM アイデンティティセンター OAuth を介した IAM セッションの認証を許可します。
- ユーザープロフィールとディレクトリ - IAM アイデンティティセンターコネクタ、ユーザープロフィール、外部 ID プロバイダーのセットアップを含むディレクトリ設定を管理できます。
- ユーザーサブスクリプション - ユーザーサブスクリプションのリスト表示を許可します。

JSON ポリシードキュメントの最新バージョンなど、ポリシーについてさらに詳しく確認するには、「AWS マネージドポリシーリファレンスガイド」の「[ApplicationProvisioningPolicy](#)」を参照してください。

## AWS マネージドポリシー: SignInLocalDevelopmentAccess

このSignInLocalDevelopmentAccessポリシーは、コンソール認証情報 AWS を使用してへのプログラムによるアクセス許可を付与します。

ユーザー、グループおよびロールに SignInLocalDevelopmentAccess をアタッチできます。

## アクセス許可の詳細

このポリシーには、以下のアクセス許可が含まれています。

- OAuth2 アクセスの承認 - ブラウザを介して認証し、認証情報交換用の OAuth 2.0 認可コードを取得するアクセス許可を付与します
- OAuth2 トークンの作成 - OAuth 2.0 アクセストークンと更新トークンの認可コードを交換するためのアクセス許可を付与します。このトークンは、開発者ツールやアプリケーションから AWS サービスにアクセスするために使用できます。

### Note

この AWS 管理ポリシーを追加すると、同じデバイス認証とクロスデバイス認証の両方のアクセス許可が付与されます。このポリシーは、次のリソースに対するアクションを承認します。

- `arn:aws:signin:region:account-id:oauth2/public-client/localhost-` を使用した同一デバイス認証に使用されます `aws login`。
- `arn:aws:signin:region:account-id:oauth2/public-client/remote-` を使用したクロスデバイス認証に使用されます `aws login --remote`。

いずれかの認証方法へのアクセスを制御するには、独自の管理ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) を作成できます。これらのリソース ARNs を使用して、コンソール認証情報を使用した AWS へのプログラムによるアクセスを許可または拒否します。

詳細については、「[コンソール認証情報を使用してログインする \(推奨\)](#)」を参照してください。JSON ポリシードキュメントの最新バージョンなど、ポリシーの詳細については、「AWS マネージドポリシーリファレンスガイド」の [SignInLocalDevelopmentAccess](#) を参照してください。

## AWS サインイン AWS 管理ポリシーの更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始 AWS サインイン してからの の AWS 管理ポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、AWS サインイン ドキュメント履歴ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
<a href="#">SignInLocalDevelopmentAccess</a> – 新しいポリシー	既存のコンソール認証情報 AWS を使用して へのプログラムによるアクセス許可を付与する新しい AWS マネージドポリシーを追加しました。	2025 年 11 月 19 日
<a href="#">ApplicationProvisioningPolicy</a> – 新しいポリシー	IAM ロールとポリシー管理、IAM Identity Center 設定、Identity Store オペレーションなど、アプリケーションのプロビジョニングと ID 管理オペレーションの包括的なアクセス許可を付与する新しい AWS マネージドポリシーを追加しました。	2025 年 9 月 30 日
<a href="#">AmazonManagedSignUpServicePolicy</a> – 新しいポリシー	顧客検証や支払い設定オペレーションなど、AWS アカウントのサインアッププロセスに必要なアクセス許可を付与する新しい AWS マネージドポリシーを追加しました。	2025 年 9 月 30 日
AWS サインイン が変更の追跡を開始しました	AWS サインイン は、AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2025 年 9 月 30 日

## ドキュメント履歴

次の表に、AWS サインインドキュメントへの重要な追加点を示します。また、お客様からいただいたフィードバックに対応するために、ドキュメントを頻繁に更新しています。

- 主要なドキュメントの最終更新日: 2025 年 9 月 9 日

変更	説明	日付
<a href="#">GitHub と Amazon でのサインインのサポート</a>	AWS サインイン は、GitHub でサインインと Amazon でサインインをサポートするようになりました。これにより、GitHub または Amazon アカウント AWS ビルダー ID を使用して を作成できます。	2026 年 3 月 10 日
<a href="#">Apple でのサインインのサポート</a>	AWS サインイン では、Apple でサインインがサポートされるようになりました。これにより、Apple Account. AWS ビルダー ID topics が更新され、 <a href="#">AWS ビルダー ID 問題のトラブルシューティング</a> に追加された新しいトラブルシューティングトピック AWS ビルダー ID を使用して を作成できます。	2026 年 2 月 5 日
<a href="#">新しい 管理ポリシー</a>	AWS サインイン は新しい 管理ポリシーをリリースしました。 は、既存のコンソール認証情報 AWS を使用して へのプログラムによるアクセス許可SignInLocalDevelopmentAccess を付与しま	2025 年 11 月 19 日

す。詳細については、「[AWS サインインAWS 管理ポリシーの更新](#)」を参照してください。

### [Google でのサインインのサポート](#)

AWS サインイン は Google でサインインをサポートするようになりました。これにより、Google Account. AWS ビルダー ID topics が更新され、[AWS ビルダー ID 問題のトラブルシューティング](#)に追加された新しいトラブルシューティングトピック AWS ビルダー ID を使用して を作成できます。

2025 年 9 月 30 日

### [新しいマネージドポリシー](#)

AWS サインイン は 2 つの新しい管理ポリシーをリリースしました。は、AWS アカウントサインアッププロセスを完了するために必要なアクセス許可AmazonManagedSignUpServicePolicy を付与します。は、アプリケーションのプロビジョニングと ID 管理オペレーションのための包括的なアクセス許可ApplicationProvisioningPolicy を付与します。詳細については、「[AWS サインインAWS 管理ポリシーの更新](#)」を参照してください。

2025 年 9 月 30 日

<a href="#">更新されたトラブルシューティングのトピック</a>	AWS ビルダー ID と <a href="#">にサインインするための新しいトラブルシューティングトピック</a> を追加しました AWS マネジメントコンソール。	2024 年 2 月 27 日
<a href="#">組織に関するいくつかのトピックを更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプ</a> を更新、ユーザータイプの決定を削除し、そのコンテンツを <a href="#">ユーザータイプ</a> に組み込み、 <a href="#">にサインインする方法 AWS</a>	2023 年 5 月 15 日
<a href="#">いくつかのトピックとトップバナーを更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプ</a> 、ユーザータイプの決定、 <a href="#">サインイン方法 AWS</a> 、 <a href="#">AWS サインインとは</a> を更新しました。ルートユーザーと IAM ユーザーのサインイン手順も更新しました。	2023 年 3 月 3 日
<a href="#">AWS マネジメントコンソールサインインの概要の段落を更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプの決定</a> をページ上部に移動し、 <a href="#">アカウントルートユーザー</a> にあるメモを削除しました。	2023 年 2 月 27 日
<a href="#">追加済み AWS ビルダー ID</a>	AWS サインインユーザーガイドに AWS ビルダー ID トピックを追加し、コンテンツを既存のトピックに統合しました。	2023 年 1 月 31 日

## 組織の最新情報

お客様からのフィードバックに基づいて、サインイン方法についてより明確になるように目次を更新しました。サインインチュートリアルを更新しました。[用語とユーザータイプの決定](#)を更新しました。IAM ユーザーやルートユーザーなどの用語を定義するためのクロスリンクが改善されました。

2022 年 12 月 22 日

## 新しいガイド

これは、AWS 「サインインユーザーガイド」の最初のリリースです。

2022 年 8 月 31 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。